



実績報告書

本編

大会概要	4
式典行事	10
海上歓迎・放流行事	28
お手渡し容器・御放流容器等	35
作品コンクール（絵画・習字）優秀作品御覧	36
歓迎レセプション	37
関連行事「豊かな海づくりフェスタ in あきた」	40
関連行事「サテライト会場」	44
お手渡し魚等の記念放流	46

大会開催のあゆみ

大会開催経過	48
大会テーマ・大会キャラクターコスチューム	51
大会公式弁当	52
各種PRイベント	53
秋田のさかなを食べようキャンペーン	56
県民総合リレー放流	57
広報活動等	59
その他	61

資料編

功績団体表彰	63
作品コンクール	64
新聞報道	72
広報製作物等	78
協賛・その他協力団体等一覧	82
規約・組織	83



天皇陛下御即位記念
第39回 **全国豊かな海づくり大会**
海づくり つながる未来 豊かな地域 **あきた大会**

本編



- ◎大会名称 天皇陛下御即位記念 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会
- ◎主催 豊かな海づくり大会推進委員会
第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会
- ◎後援 農林水産省、環境省
- ◎開催日 令和元年9月7日(土)・8日(日)
- ◎開催地 秋田県秋田市
- ◎会場 式典行事…………… 秋田県立武道館
海上歓迎・放流行事…………… 秋田港飯島地区
歓迎レセプション…………… 秋田キャッスルホテル
関連行事…………… 道の駅あきた港
サテライト会場…………… 【秋田市会場】
JR秋田駅前周辺、秋田拠点センターアルヴェ
【男鹿市会場】
JR男鹿駅及び道の駅おが
【八峰町会場】
秋田県漁業協同組合北部総括支所・八森観光市
【にかほ市会場】
にかほ市観光拠点センター「にかほっと」
- ◎参加者数 約5万4千人
- ◎大会テーマ 「海づくり つながる未来 豊かな地域」
- ◎大会キャラクター 秋田県PRキャラクター「んだッチ」





□ 開催の意義

(1) 秋田の水産業振興と漁村地域の活性化

東北地方の北西部に位置する秋田県は、日本海に面した雄大な自然に恵まれています。中でも、世界自然遺産の白神山や秀麗な鳥海山、美しい景色が続く男鹿半島は、国内でも人気の観光スポットです。また、海岸部の約7割を砂浜海岸が占めており、日本海に注ぐ米代川や雄物川、子吉川の三大河川沿いには、米どころ秋田を支える肥沃な平野が開けています。

本県沖は、対馬海流(暖流)とリマン海流(寒流)が流れ込むことから、多種多様な魚介類が生息しています。底びき網や定置網、さし網などによって水揚げされる魚介類は150種類以上で、中でもハタハタや北限の産卵場を有するトラフグ・マダイ、鳥海山の伏流水で育つイワガキなどは、本県を代表する水産物といえます。

近年の漁業環境の変化など水産業を取り巻く様々な課題を克服するため、本県では、漁業者と自治体などが一体となって「つくり育てる漁業」を重点的に推進し、県産水産物の高付加価値化やブランド化に向けた多彩な取組も積極的に行っています。

秋田県民歌で「山水皆これ、詩の国」と謳われている秋田の地において、全国豊かな海づくり大会を開催することは、多様な自然環境と魚介類に恵まれた本県の水産業を、全国の皆様に広く知っていただく絶好の機会となります。これを機に、秋田の魅力に磨きをかけ、全国から訪れる方々との交流を通じて、水産業の振興と漁村の活性化につなげていきます。

(2) 豊かな海を育む森と河川・湖沼の保全と未来への継承

東部の県境には奥羽山脈が縦走り、八幡平や駒ヶ岳、栗駒山などの豊かな森は、清冽な河川の源となって多様な生き物を育み、母なる日本海へとつながっています。サケやサクラマス、アユ、イワナなど、「命の水系」の恵みをいただく内水面の漁業者は、平成15年3月に制定された「秋田県ふるさとの森と川と海の保全及び創造に関する条例(愛称:水と緑の条例)」の趣旨に沿いながら、水源から海に至る生態系や水環境の保全・管理を通じて、持続的に資源を活用しています。

また、本県には、十和田湖と田沢湖、八郎湖の三つの湖があり、これら三湖を舞台とした壮大なスケールの「秋田龍神伝説」は今なお脈々と語り継がれ、秋田の創世を物語る民話となっています。その十和田湖ではヒメマス、八郎湖ではワカサギが主な漁獲対象種であり、田沢湖では戦前、固有種である「奇跡の魚・クニマス」も獲られていました。

今回の全国豊かな海づくり大会では、森から河川・湖沼を経て海へと至る自然環境の保全と、そこに育まれる生命の大切さについて、県内外に力強くアピールしていきます。

(3) 秋田の海にまつわる歴史・食文化の魅力の発信

本県沿岸の多様な魚介類は、県民の食生活に恵みと潤いを与え、独特の食文化を育んできました。特に、秋田県民にとって特別な存在である県の魚ハタハタについては、資源量の激減を受け、平成4年9月から3年間、自主的な全面禁漁に取り組み、その後、恒常的な資源管理を続けています。長らく本県の漁業経営を支えてきたハタハタは、しょっつる(魚醤)や飯ずしなどの伝統食の素材としても、本県の食文化を牽引してきました。

また、北前船の舟運が発達した江戸時代には、米や酒をはじめ、魚肥や秋田杉、銀・銅などの特産物を上方に運び、経済と文化が行き交う交易圏を形成するなど、本県独自の歴史と文化を創り出してきました。

今回の全国豊かな海づくり大会では、長年にわたって培ってきた、こうした本県の食の魅力や歴史・文化を全国に向けて発信していきます。



鳥海山



「県の魚」ハタハタ

□ 基本理念

秋田県の特徴ある水産資源や農山漁村の環境・歴史・文化などを全国に広く発信するとともに、水産業の振興や観光産業等との連携により、地域の活性化を図ります。

□ 基本方針

(1) つくり育てる漁業を中心とした水産業の振興と地域の活性化

漁業者の所得向上や漁村の活性化など、本県水産業の現状と課題をしっかりと見据え、平成30年度にリニューアルした秋田県水産振興センター栽培漁業施設を核としながら、「つくり育てる漁業」を進化・発展させるとともに、「漁業後継者の育成・確保」や「水産加工品の開発・販売」などに重点的に取り組み、本県水産業の振興と地域の活性化につなげる大会とします。

(2) 豊かな自然環境の保全・利活用

海や河川・湖沼がもたらす豊かな恵みに深く感謝し、守り育てる意識を育むとともに、将来にわたって自然環境と共生し、地域資源の効果的な活用を目指す大会とします。

(3) 秋田の魅力の発信

観光産業との連携により、本県の歴史に根付いた魚食・漁村文化や豊かで美しい自然環境などの魅力を発信し、未来へと継承する大会とします。

(4) 秋田のまごころあふれる大会のアピール

県民総参加のもと、豊かな自然や多彩な伝統文化、食文化を誇る秋田において、全国から訪れる方々を秋田らしい、まごころで迎えるおもてなしの大会とします。



リニューアルした秋田県水産振興センター



アワビの稚貝



□ 会場配置図



海上歓迎・放流行事会場
秋田港飯島地区



サテライト会場
秋田県漁業協同組合北部総括支所・八森観光市

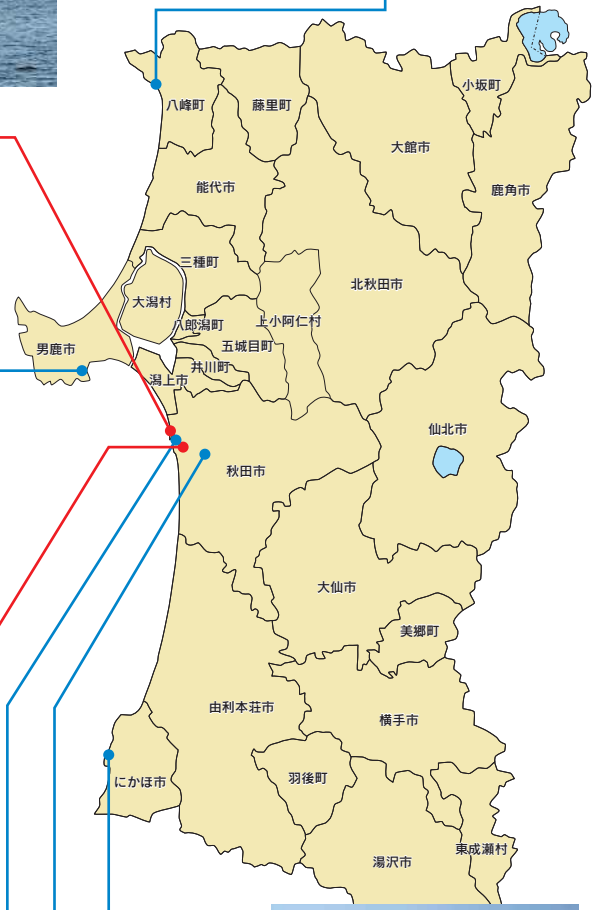


サテライト会場
JR男鹿駅及び道の駅おが

式典行事会場
秋田県立武道館



関連行事会場
道の駅あきた港



サテライト会場
にかほ市観光拠点センター「にかほっと」

サテライト会場
JR秋田駅前周辺・秋田拠点センターアルヴェ



□ 大会参加者

行事名	会場	人数	内訳
歓迎レセプション(7日)	秋田キャッスルホテル	201人	県内101人、県外100人
式典行事(8日)	秋田県立武道館	771人	県内216人、県外555人
海上歓迎・放流行事(8日)	秋田港飯島地区	364人	県内209人、県外155人
関連行事(7日・8日)	道の駅あきた港、JR秋田駅周辺、JR男鹿駅及び道の駅おが、にかほ市観光拠点センター「にかほっと」前特設会場、秋田県漁業協同組合北部総括支所・八森観光市	52,335人	7日 23,986人 8日 28,349人
合計		53,671人	

□ 出演者

◎式典行事出演者

区分		団体名等	人数	
プロローグ	ナビゲーター	壇蜜	1	
	秋田の高校生・海斗	伊藤綾真	1	
	秋田の高校生・風太	村上雅迪	1	
	秋田の高校生・郁美	三浦莉央	1	
	なまはげ太鼓	秋田県立男鹿海洋高等学校郷土芸能部	19	
	水の精	ダンススタジオS.T.Rays	15	
		ダンススタジオS.T.Rays Jr.	15	
		たなはしあゆこバレエスクール	13	
	海の祭	大正寺おけさ保存会	23	
		秋田和洋女子高等学校郷土文化部	7	
金浦神楽保存会		25		
式典	司会進行	増田卓(NHKアナウンサー)	1	
		高橋紀子(フリーアナウンサー)	1	
	登壇者	大会会長賞受賞者代表	秋田県漁業協同組合	1
		農林水産大臣賞受賞者代表	公益社団法人山口県栽培漁業公社	1
		環境大臣賞受賞者代表	静岡県・北限域(内浦湾)の造礁サンゴ群落保全会	1
		水産庁長官賞受賞者代表	宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉青年研究会	1
		秋田県知事賞受賞者代表	秋田市立桜中学校3年 大山瑠菜	1
		最優秀賞作文発表者	八峰町立八森小学校3年 小林桜和	1
	大会旗入場	大会旗入場(先導)	秋田太陽幼稚園・ベビー園	19
		大会旗入場(旗手)	秋田県立男鹿海洋高等学校	9
	稚魚等のお手渡し	介添え	秋田県立秋田北高等学校	4
		お手拭き	秋田県立秋田北高等学校	2
		お受け者	秋田県漁業協同組合 北浦総括支所北浦地区代表 西方強	1
			秋田県内水面漁業協同組合連合会 代表理事長 湊屋啓二	1
			秋田県漁業協同組合 象潟根付委員会代表 齊藤一成	1
	海づくりメッセージ	秋田県漁業協同組合 双六コンブ養殖会代表 三浦幹夫	1	
		若手漁業者(県南部)	秋田県漁業協同組合員 佐藤栄治郎・未来 夫妻	2
		若手漁業者(県中央部)	秋田県漁業協同組合員 伊藤徳洋・歩 夫妻	2
		若手漁業者(県北部)	秋田県漁業協同組合員 小林優大・雅子 夫妻	2
	ベテラン漁業者	秋田県漁業協同組合理事 杉本貢	1	
エピローグ	郷土芸能	港ばやし保存会	6	
		秋田県民謡協会	7	
		高橋キヌ子社中	12	
	フィナーレ	渡部絢也(シンガーソングライター)	1	
全体	音楽演奏	秋田県立秋田南高等学校吹奏楽部	73	
	手話通訳者	秋田県手話通訳員	4	
	要約筆記者	秋田県聴覚障害者支援センター	4	
	式典補助員	秋田県立秋田北高等学校	10	
合計			291	



◎海上歓迎・放流行事出演者

区 分		団体名等	人数
海上歓迎・放流行事	司会進行	松田利仁垂(NHKアナウンサー)	1
		坂本愛(フリーアナウンサー)	1
	漁法紹介 (海上パレード)	第百十八兼丸、第三天龍丸、新洋丸、第2文丸	23
		秋田県立男鹿海洋高等学校実習船(NAMAHAGE)	13
		官公庁船(くぼた・千秋丸)	15
音楽演奏	ノースアジア大学明桜高等学校吹奏楽部	81	
介添え・お手拭き	秋田県立男鹿海洋高等学校	29	
合 計			163

◎関連行事出演者

区 分		団体名等	人数
9月7日(土)	司会進行	真坂はづき	1
	オープニング演奏	秋田県立秋田中央高等学校吹奏楽部	73
	秋田の海を知ろう!地魚クイズ	全国豊かな海づくり大会・あきた大会広報キャラバン隊	2
	書道パフォーマンス	秋田県立能代松陽高等学校書道部	11
	超神ネイガーショー	超神ネイガー	6
	地魚料理ショー	野口かおり	1
	後催県PRキャラバン	第40回全国豊かな海づくり大会宮城県実行委員会	3
	一輪車パフォーマンス	白百合保育園一輪車クラブ	9
	伝統芸能	土崎港ばやし保存港和会	8
	民謡披露	梅若流梅若会	5
9月8日(日)	司会進行	真坂はづき	1
	オープニング演奏	やまばと太鼓	16
	秋田の海を知ろう!地魚クイズ	全国豊かな海づくり大会・あきた大会広報キャラバン隊	2
	なまはげ太鼓	NAMAHAGE郷神楽	4
	伝統芸能	西馬音内盆踊保存会	18
	後催県PRキャラバン	第40回全国豊かな海づくり大会宮城県実行委員会	3
	ギョギョッとびっくりお魚教室!	さかなクン	1
	郷土芸能	秋田県立由利高等学校民謡部	33
合 計			197

□ スタッフ

区 分	9月7日	9月8日	延 べ
秋田県	870	793	1,663
秋田市	80	80	160
秋田県栽培漁業協会	3	5	8
男鹿水族館	6	6	12
合 計	959	884	1,843

□ おもてなし協力団体

◎式典行事、海上歓迎・放流行事

内 容	団体名等	人数
かまぼこ試食・企画展示	秋田県立男鹿海洋高等学校	29
いぶりがっこ試食	株式会社雄勝野きむらや	-
もろこし試食	有限会社フジタ製菓	1
あめこうじ甘酒試飲	小玉醸造株式会社	2
白神山水試飲	株式会社藤里開発公社 白神山水の館	-
スポーツドリンク提供	大塚製薬株式会社仙台支社秋田出張所	-
ギバサしょつつるポン酢・しょつつるスープ試食	しょつつる研究会・あきたのギバサ研究会	4
企画展示・育英会募金	あきた海洋少年団・(公財)漁船海難遺児育英会	19
企画展示等	秋田県つり連合会、大館曲げわっぱ協同組合 有限会社柴田慶信商店、樹皮工房山の恵 角館工芸協同組合、株式会社丸松銘木店 株式会社渡辺事業所	-
合 計		55



□ 概要

令和元年9月8日(日)、秋田県立武道館で式典行事を開催し、天皇皇后両陛下の御臨席のもと、全国各地からの招待者など771名が参加しました。

□ 進行表

時間	プログラム	出演者等
9:50	プロローグ ・旅の始まり ・秋田の海 生命の流れ ・海との関わり、海の祭 ・秋田の地魚、漁業、食文化 ・海の未来を担う	なまはげ太鼓：秋田県立男鹿海洋高等学校郷土芸能部 水の精：ダンススタジオS.T.Rays、ダンススタジオS.T.Rays Jr. たなはしあゆこバレエスクール 大正寺おけさ：大正寺おけさ保存会 秋田和洋女子高等学校郷土文化部 金浦神楽：金浦神楽保存会 【ナビゲーター】 壇蜜 【秋田の高校生】 伊藤綾真（海斗） 村上雅迪（風大） 三浦莉央（郁美） 【音楽・歌】 栗林聡子 いせきあい 渡部絢也
10:25	受賞者紹介映像	
10:29	進行概要説明	
10:34	登壇者紹介	
10:40	式典 天皇皇后両陛下御臨席	
	大会旗入場	(先導)秋田太陽幼稚園・ベビー園 (旗手)秋田県立男鹿海洋高等学校 (受取)秋田県議会議長
	開会のことば	秋田県漁業協同組合代表理事組合長
	国歌斉唱	
	主催者あいさつ	大会会長、秋田県知事
	歓迎のことば	秋田市市長
	天皇陛下のおことば	
	表彰(功績団体等)	功績団体表彰受賞者代表、作品コンクール受賞者代表
	最優秀作文の発表	大会会長賞受賞者代表
	稚魚等のお手渡し	(お受け者)秋田県漁業協同組合 北浦総括支所北浦地区代表 秋田県内水面漁業協同組合連合会 代表理事会長 秋田県漁業協同組合 象潟根付委員会代表 秋田県漁業協同組合 双六コンブ養殖会代表 (介添え)秋田県立秋田北高等学校
	オープニング	
	海づくりメッセージ SCENE-1 県南部の若手漁業者からのメッセージ	【若手漁業者夫妻】秋田県漁業協同組合員
	SCENE-2 県中部の若手漁業者からのメッセージ	【若手漁業者夫妻】秋田県漁業協同組合員
	SCENE-3 県北部の若手漁業者からのメッセージ	【若手漁業者夫妻】秋田県漁業協同組合員
	SCENE-4 ベテラン漁業者からの激励メッセージ	【ベテラン漁業者】秋田県漁業協同組合理事
	大会決議	豊かな海づくり大会推進委員会会長
	大会旗引継、次期開催県あいさつ	秋田県知事、宮城県知事
	閉会のことば	秋田県議会議長
	天皇皇后両陛下御退席	
11:35	表彰式	功績団体表彰受賞者、作品コンクール受賞者
	エピローグ	港ばやし保存会、秋田県民謡協会、高橋キヌ子社中、渡部絢也(シンガーソングライター)
12:17	終了	

プロローグ・エピローグ演出：栗城宏(劇団わらび座)
 総合司会：増田卓(NHKアナウンサー)・高橋紀子(フリーアナウンサー)
 式典補助員：秋田県立秋田北高等学校
 音楽演奏：秋田県立南高等学校吹奏楽部
 手話通訳：秋田県手話通訳員
 要約筆記：秋田県聴覚障害者支援センター

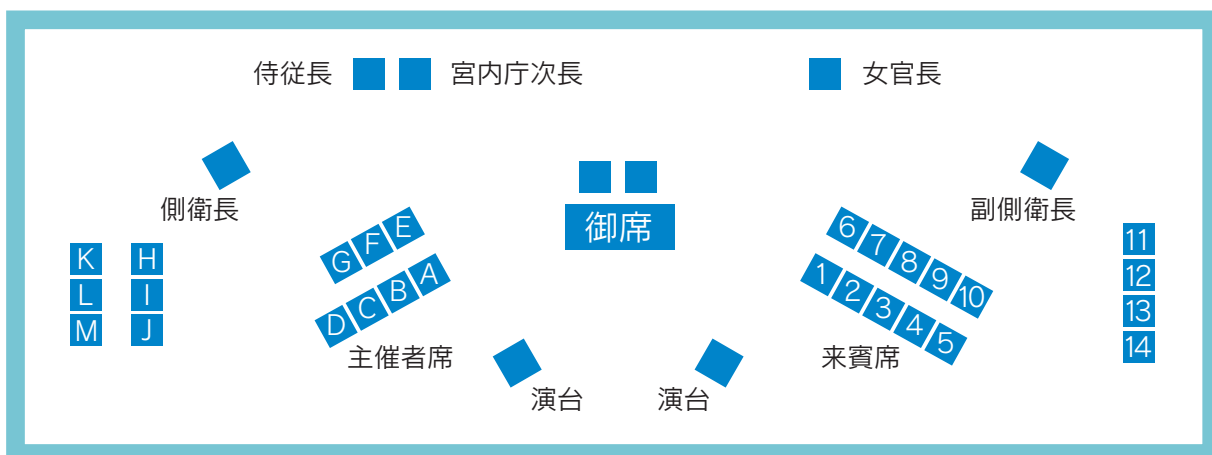


□ 式典行事会場

◎秋田県立武道館



□ ステージ座席表



- A** 大会会長（衆議院議長）
- B** 豊かな海づくり大会推進委員会会長
（全国漁業協同組合連合会代表理事会長）
- C** 秋田県知事
- D** 秋田県議会議長
- E** 秋田市市長
- F** 秋田市議会議長
- G** 秋田県漁業協同組合代表理事組合長
- H～M** 式典補助員（秋田県立秋田北高等学校）

- 1** 農林水産大臣
- 2** 環境大臣
- 3** 水産庁長官
- 4** 宮城県知事
- 5** 最優秀作文発表者
- 6** 大会会長賞受賞者（功績団体）
- 7** 農林水産大臣賞受賞者（功績団体）
- 8** 環境大臣賞受賞者（功績団体）
- 9** 水産庁長官賞受賞者（功績団体）
- 10** 秋田県知事賞受賞者（作品コンクール）
- 11～14** 式典補助員（秋田県立秋田北高等学校）

□ プロローグ:秋田の海の豊かさと魅力をミュージカル風に展開

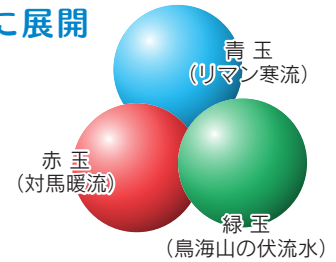
【ナビゲーター】壇蜜

【秋田の高校生】郁美:三浦莉央、風太:村上雅迪、海斗:伊藤綾真

【水の精】ダンススタジオ S.T.Rays

ダンススタジオ S.T.Rays Jr.

たなはしあゆこバレエスクール



1 旅の始まり:大会の幕開け

【なまはげ太鼓】秋田県立男鹿海洋高等学校郷土芸能部

ユネスコ無形文化遺産の男鹿のなまはげ。なまはげの姿に扮した秋田県立男鹿海洋高等学校郷土芸能部の生徒たちが打ち鳴らす「なまはげ太鼓」によって、秋田での全国豊かな海づくり大会の幕開けが高らかに告げられる。

2 旅の始まり:秋田の海の魅力を探す旅

秋田の3人の高校生。ナビゲーターから、秋田の海の魅力を探る旅へといざなわれる。



(第1章)

3 秋田の海 生命の流れ

赤玉(対馬暖流)、青玉(リマン寒流)、緑玉(鳥海山の伏流水)の海玉を持った水の精が次々と現れる。海玉を託された高校生は、暖流と寒流が大地の栄養を含んだ伏流水と出会い交わることによって、生命が育まれている秋田の海の豊かさを知る。

(第2章)

4 海との関わり、海の祭:大陸との交流

奈良・平安時代、出羽国秋田にあった秋田城。世界最古1,200年前の水洗トイレが発掘された。大陸の渤海国(ぼっかいこく)との交流があったと考えられている。高校生は、秋田は古くから海を越えて交流があったことを知る。



5 海との関わり、海の祭:大正寺おけさ

【大正寺おけさ】大正寺おけさ保存会、秋田和洋女子高等学校郷土文化部

江戸中期から明治の初めにかけて北海道と大阪を結び日本海を往来した北前船。九州で生まれた「ハイヤ節」が北前船の船頭衆によって日本各地に広められた。秋田の土崎港から雄物川を遡上して伝えられたとされている、民謡「大正寺おけさ」と手踊りが披露された。



6 海との関わり、海の祭:掛魚(かけよ)まつり

【金浦神楽】金浦神楽保存会

船主がとれた中で一番大きな鱈を神に供え、大漁や海上安全を祈願し、神前でつくった大鍋の「鱈汁」を参詣人にふるまってきた。別名『鱈まつり』。鱈を担ぎ、金浦漁港から金浦山神社まで練り歩く祭の様子が「金浦(きんぼう)神楽」の演奏とともに再現された。高校生は、祭を通じて、海との関わりを学んだ。



(第3章)

7 秋田の地魚、漁業、食文化:新秋田音頭・さかな音頭

【新秋田音頭・さかな音頭】秋田の高校生、水の精

秋田を代表する魚「ハタハタ」。かつて、漁獲量減少の危機的状况に際し、3年間全面禁漁した歴史がある。高校生は、家族から伝えられたこの歴史に思いを巡らし、「新秋田音頭・さかな音頭」のリズムにのせ、秋田の海の豊かさ、地魚の魅力などを歌い上げた。

(第4章)

8 海の未来を担う:海を守り育てる取組

種苗放流等、秋田の水産業の現場で行われている「海を守り育てる取組(環境保全・資源保護の活動)」を通じて、高校生は、自分たちが今後どのように海と向き合い、関わっていくかを、それぞれの立場から考え、決意を発信した。



9 海の未来を担う:僕たちの未来

【僕たちの未来】渡部絢也、秋田の高校生、水の精、秋田県立秋田南高等学校吹奏楽部

暖流、寒流、伏流水の水の精によって囲まれた高校生は、海とともに歩いていく気持ちを、秋田県立秋田南高等学校吹奏楽部の演奏とともに秋田の応援ソング「僕たちの未来」に乗せた。



□ 大会旗入場

天皇皇后両陛下御臨席の後、秋田太陽幼稚園・ベビー園の先導により、秋田県立男鹿海洋高等学校の旗手団が入場し、旗手団長が加藤鉦一秋田県議会議長へ大会旗を手渡しました。



秋田太陽幼稚園・ベビー園



秋田県立男鹿海洋高等学校



大会旗受取

式典補助員



秋田県立秋田北高等学校

音楽演奏



秋田県立秋田南高等学校吹奏楽部



□ 開会のことば

秋田県漁業協同組合 代表理事組合長 **加賀谷 弘**

加賀谷弘秋田県漁業協同組合代表理事組合長の「開会のことば」で、式典が始まりました。



□ 主催者あいさつ

全国豊かな海づくり大会会長
衆議院議長 **大島 理森**

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、天皇陛下御即位記念 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会が開催されるに当たり、主催者として一言御挨拶申し上げます。

天皇皇后両陛下におかれましては、皇太子同妃両殿下の当時から本大会に御臨席を重ねられた上皇上皇后両陛下の御心を受け継がれ、全国豊かな海づくり大会に初めて御臨席を賜り、まことにありがたく存じます。

令和最初の大会が開催されるここ秋田県は、水産物や農山漁村地域の環境・歴史・文化などの魅力にあふれています。秋田県沖は暖流と寒流が流れ込むことから多種多様な魚介類が生息し、ハタハタ、マダイ、イワガキ、ギバサなどはその代表です。これら魚介類は、長年、独特の食文化を育ててきました。県の魚ハタハタについては、資源量の激減を受け、恒常的な資源管理の取組が鋭意続けられていると承知しております。また、秋田県には豊かな森が広がっていますが、海と森の関係の深さについては申すまでもありません。平成15年制定の「水と緑の条例」の趣旨に沿い、水源から河川・湖沼を経て海に至る生態系のバランスのとれた水環境の保全・管理を通じて、持続的な資源の活用が図られていると聞き及んでおります。

秋田の海・川・湖の魅力を誇りとされ、これら各般の取組を基礎としつつ、水産業の振興と地域の活性化が図られることが大いに期待されるところであります。

本大会は、来年は宮城県で開催予定です。東日本大震災から8年半近く経ちますが、今大会と次の大会を通し、東北の元気な姿を国内外に発信してまいりたいと考えております。

また、先般のG20大阪サミットでは、2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにする目標などが合意されました。こうした世界的な動きも踏まえつつ、今後とも「豊かな海づくり」のため本大会の発展を図っていくことが肝要であると存じます。

本日、栄えある表彰をお受けになる方々に対し、心より敬意を表しお慶びを申し上げます。また、お集まりの皆様には、次の世代へ豊かな海を継承するため、今後とも御尽力を賜りますよう切にお願いいたします。結びに、大会開催のため力を尽くしてこられた関係者の方々に厚く御礼を申し上げ、御挨拶といたします。



□ 表彰

功績団体表彰受賞者（栽培漁業部門、資源管理型漁業部門、漁場・環境保全部門）及び作品コンクール（作文、絵画、習字）入賞者の表彰式を行いました。

◎功績団体表彰受賞者代表

大会会長賞：秋田県漁業協同組合【資源管理型漁業部門】
農林水産大臣賞：公益社団法人山口県栽培漁業公社【栽培漁業部門】
環境大臣賞：静岡県・北限域（内浦湾）の造礁サンゴ群落保全会【漁場・環境保全部門】
水産庁長官賞：宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉青年研究会【漁場・環境保全部門】

◎作品コンクール受賞者代表

秋田県知事賞：秋田市立桜中学校3年 大山瑠菜【絵画】



□ 主催者あいさつ

秋田県知事 佐竹 敬久

希望に満ち溢れた新しい令和の時代の幕開けに、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「天皇陛下御即位記念 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」を開催できますことは、私たち秋田県民にとりまして、誠に光栄であり、この上ない喜びであります。

御来賓をはじめ、全国各地から御参加いただきました皆様に、心から歓迎を申し上げますとともに、本日、栄えある表彰を受けられる皆様に、心からお祝いを申し上げます。

さて、秋田県は、県土の7割を森林が占めており、この美しい森で育まれた清流は、河川となって肥沃な耕地を潤し、さらには日本海に注がれ、海の恵みを豊かにしてくれます。

対馬海流とリマン海流が交わる本県沖では、県の魚であるハタハタをはじめ、北限の産卵場を有するトラフグ・マダイ、鳥海山の伏流水で育ったイワガキなど、150種類もの魚介類が水揚げされております。

こうした四季折々の海の幸に恵まれた本県では、多様な郷土料理が伝承されており、特にハタハタは、魚醤の一つである「しょつつる」や、「飯ずし」などの素材として、独特の食文化を牽引してまいりました。

また、海には、物流や人々の交流を支えてきた歴史があります。江戸時代には、北前船の寄港地として、上方の経済と文化が行き交うなど、これまで、独自の風土が根付いてきました。

このように豊かな自然や文化、歴史に育まれた本県において開催する大会のテーマは、「海づくりつなげる未来 豊かな地域」であります。

本大会を契機としまして、世界遺産の白神山地や大地を潤す河川、恵みをもたらす日本海など、豊かな自然に感謝するとともに、未来永劫、守り育てる思いと行動の大切さを、将来を担う子供たちにしっかりとつないでまいります。

結びに、天皇皇后両陛下の御健勝を心からお祈り申し上げますとともに、本日御参加の皆様の御多幸を御祈念申し上げまして、開催県を代表し、御挨拶といたします。



□ 歓迎のことば

秋田市長 穂積 志

本日、ここに天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「天皇陛下御即位記念 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」が開催されますことを、大変光栄に存じますとともに、秋田市民を代表して、心から感謝申し上げます。

また、全国各地から御参加いただきました皆様、ようこそ秋田市へおいでくださいました。心から歓迎を申し上げます。

さて、ここ秋田市は、東に出羽山地を擁し、西に位置する日本海に向けて、雄物川などの河川が流れ、その流域一帯には肥沃な秋田平野が広がる、自然豊かな田園都市であります。その豊富な水資源は、米をはじめとする農作物に加え、四季折々の海産物を地域にもたらしております。

また、秋田港は、廻船式目において日本の十大港湾である三津七湊に位置づけられ、江戸から明治にかけては北前船の寄港地として繁栄するなど、本市発展の礎となりました。

私たちは、これまで多くの恩恵を与えてくれた海や港への感謝の念を胸に刻み、この豊かな海を次世代へ継承する努力を続けてまいります。

結びに、天皇皇后両陛下の益々の御健勝と御繁栄、そして本日御参加の皆様の御多幸をお祈り申し上げます。歓迎のことばといたします。





□ 天皇陛下のおことば



第39回全国豊かな海づくり大会が、日本海に面したここ秋田県で開催されることを喜ばしく思います。

四方を海に囲まれた我が国は、古くから豊かな海の恵みを受けてきました。また、山や森から河川や湖を経て海へ至る自然環境と、そこに育まれる生命や文化は、私たちに様々な恩恵をもたらしてくれま

す。私自身、以前に鳥海山に登った折に、鳥海山の雪解け水がブナ林を養い育て、伏流水となって山麓の田畑を潤し、やがて日本海に注いで良質なイワガキを育てていると聞き、山と海、そして人間との大切なつながりを感じたことを思い出します。

このような豊かな海の環境を保全するとともに、水産資源を保護・管理し、海の恵みと美しさを次世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な使命であると考えます。

この度、初めて全国豊かな海づくり大会に臨み、本大会が、海などの環境保全や漁業の振興、さらには海に関わる文化の継承に果たしてきた役割と意義に思いを致し、大会に携わってこられた多くの関係者の努力に深く敬意を表します。

ここ秋田県においても、特産のハタハタの産卵場所となる藻場を作ったり、マダイやトラフグなどの稚魚を保護し育てるなどの「つくり育てる漁業」を奨励する一方、「しょつつる」など海産物を使った食文化の伝承にも積極的に取り組み、漁村や水産業の振興に努められていると聞き、心強く思います。

本日表彰を受けられる方々を始め、全国各地において日頃から豊かな海づくりに尽力されている皆さんの活動が、今後も多くの人々によって支えられ、更に発展していくことを期待します。

「海づくり つながる未来 豊かな地域」をテーマとして行われるこの大会を契機として、海や漁業への理解と関心が更に深まり、豊かな海づくりの輪が、ここ秋田の地から全国へ、そして未来に向けて大きく広がっていくことを願い、私の挨拶といたします。

□ 最優秀作文発表

「海とわたしの家族」

八峰町立八森小学校3年 小林 桜和

わたしの住んでいる町は、海も山も川も近くにある、自ぜんゆたかな所です。家のまどからは、朝は山から出て来る太陽と、夕方は日本海にしずむ太陽を見ることができます。わたしは、夕日がしずむ時に、空と海がオレンジ色にそまるしゅん間が大すきです。とてもきれいです。でも時々、赤くなった夕日がうめぼしのように見えて、思わずくすくとわらってしまいます。

わたしの家のげんかんを出ると、すぐ海が広がっています。その海から、いろんな生き物や海草がとれます。その中で、わたしの家では、ぎばさという海草を加工する仕事をしています。よく夜ごはんの時に、お味そしるに入れたり、なっとうやおとうふとーしょに食べたりしています。ねばねばしていて、とても体にいいそうです。ぎばさをよく見ると、緑と茶色と黄緑色のふりかけのようなつぶつぶがまざって、シャキシャキしているふ思ぎな食べ物だけれど、とても美味しいです。わたしのお父さん、お母さん、おばあさんが一生けん命作っているぎばさをお店で見つけると、ちょっといい気分、自まんしたくなります。また、テレビでも体にいいと放送されたことがあり、もっとたくさんの人に、ぎばさのことを知ってほしいな、と思いました。

わたしのおじいさんは、りょうしをしています。海からとってくる魚のおさし身も大すきです。フライに青のりをかけて食べるのもすごく美味しいです。タコをとってきてくれた時は、お母さんがからあげにしてくれます。タコのからあげも美味しくて、ぱくぱく食べます。

夏になると、わたしのお父さんはアワビのりょうしになります。時々、バターとおしょう油でいためたアワビが夜ごはんの時に出来ます。ほっぺが落ちそうになるくらい美味しいです。

また、冬になると、ハタハタがとれます。きせつハタハタが来ると、町はにぎやかになり、りょうしの人たちは寒い中、ハタハタのあみ外しをします。ーびきーびき手であみにひっかかったハタハタを丁ねいにとっていくそうです。わたしは冬が来ると、またこのきせつがやってきたなあ、今年は大りょうだといいなあ、とわくわくした気持ちになります。

海には、たくさんめぐみがあります。お父さんもお母さんも、おじいさんもおばあさんも、家族みんなが、海の生き物たちのおかげで仕事ができます。

わたしの家の海の畑。これからも、みんな元気で海の畑から命をもらって、感しゃして食べたいと思います。そして、魚よりお肉がすきという人がまだまだ多いようですが、魚やぎばさの美味しさやえいようのよさに、日本中の人気がついてくれたらいいなあと感じています。

わたしの元気のみなもとは、家族が作るぎばさ。感しゃして、食べたいと思います。





□ 稚魚等のお手渡し

秋田県立秋田北高等学校生徒の介添えにより、天皇皇后両陛下が稚魚等をお受け者にお手渡しされました。

◎第1回お手渡し

天皇陛下がハタハタの稚魚を秋田県漁業協同組合北浦総括支所北浦地区代表の西方強さんに、皇后陛下がサクラマス稚魚を秋田県内水面漁業協同組合連合会代表理事会長の湊屋啓二さんにお手渡しされました。



□ お手渡し魚等



◆ハタハタ

分類:スズキ目ハタハタ科
主な漁法:底びき網、定置網、さし網
県の魚に制定されています。冬季に産卵のため大群で接岸する「季節ハタハタ」は、古くから県民に親しまれており、本県の伝統料理には欠かせない魚です。



◆サクラマス

分類:サケ目サケ科
主な漁法:定置網、釣り
生まれた川に残ったものは「ヤマメ」と呼ばれます。桜の花が咲く頃に生まれた川に遡上してくることが名前の由来のひとつとなっています。

□ お受け者



お受け者（ハタハタ）
秋田県漁業協同組合
北浦総括支所北浦地区代表
西方 強



お受け者（サクラマス）
秋田県内水面漁業協同組合連合会
代表理事会長
湊屋 啓二

◎第2回お手渡し

天皇陛下がエゾアワビを秋田県漁業協同組合象潟根付委員会代表の齊藤一成さんに、皇后陛下がワカメを秋田県漁業協同組合双六コンブ養殖会代表の三浦幹夫さんにお手渡しされました。



□ お手渡し魚等



◆エゾアワビ

分類:原始腹足目ミミガイ科

主な漁法:潜水漁業

寒冷地に生息しているアワビの仲間で、漁業者は稚貝放流のほか、小型貝の保護や水揚げ量の上限枠設定など、様々な手法で資源の保護に努めています。



◆ワカメ

分類:コンブ目チガイソ科

主な漁法:養殖、採藻

本県に自生するワカメは「ボタメ系」と呼ばれ、そのめかぶはアミノ酸が豊富で食味が良いとの評判です。柔らかく粘りのある独特の加工品「トロトロワカメ」も定番のひとつです。

□ お受け者



お受け者（エゾアワビ）
秋田県漁業協同組合
象潟根付委員会代表
齊藤 一成



お受け者（ワカメ）
秋田県漁業協同組合
双六コンブ養殖会代表
三浦 幹夫



□ 海づくりメッセージ

秋田で働く若き漁業者達が、海を守り、育み、未来へ繋ぐ、決意のこもった力強いメッセージを発表し、ベテラン漁業者はその決意に対して、激励のメッセージを発表しました。

【1】県南部の若手漁業者からのメッセージ

佐藤 栄治郎・未来 夫妻(秋田県漁業協同組合員)

佐藤栄治郎:私は、幼い頃から、底曳き網漁師である父の背中を見て育ち、高校卒業と同時に父の船に乗り、漁師としての一歩を踏み出しました。父の後を継げる立派な漁師になることを目標に、これまでは家族や地域の人達に支えられながら頑張ってきましたが、私よりも若い仲間も増え始めた今、今度は、自分が彼らの見本になれるように、努力を続けています。

佐藤未来:底曳き網漁業の舞台となる秋田の沖は、ハタハタ、タラ、カレイ、アマエビ、ズワイガニなど、様々な魚介類がたくさん獲れる素晴らしい漁場です。そして、すぐ目の前には、アワビやイワガキなどに恵まれた豊かな磯が広がっています。私達が暮らしている「にかほ市」は、そんな魅力的な地域です。

佐藤栄治郎・未来:これからも、日々、豊かな海への感謝を忘れず、新しい仲間が増えるよう、力を合わせて頑張っていきます。



【2】県中央部の若手漁業者からのメッセージ

伊藤 徳洋・歩 夫妻(秋田県漁業協同組合員)

伊藤徳洋:私は、秋田県の真ん中、生まれ育った潟上市で、父や兄弟と一緒に、マダイ、タラ、ハタハタなど、様々な魚を獲って暮らしています。特に、夏場に潜って獲るイワガキは、自慢の逸品です。獲りっぱなしでは増えにくい資源を、いつまでも利用できるように、青年漁業士の一人として地域の若手を引っ張りながら、漁場の清掃や害敵の駆除に取り組んでいます。

伊藤歩:私達家族は、消費者の皆さんに喜んでいただけるよう、鮮魚や加工品の直接販売を行っています。特に「棒あなご」と呼ばれ親しまれているクロヌタウナギの加工品は、我が家が誇る特産品です。

伊藤徳洋・歩:子ども達に豊かな海を引き継いで行けるよう、父や先輩達が築いてきた大切な資源と漁場をしっかりと守っていきます。



【3】県北部の若手漁業者からのメッセージ

小林 優大・雅子 夫妻(秋田県漁業協同組合員)

小林優大:私は、緑豊かな白神山地のふもと、海のきれいな八峰町で生まれ育ちました。「ギバサ」と呼ばれ、秋田では昔から親しまれているアカモクという海藻を、海から採ってきて、加工、販売するのが私の仕事です。この大切な資源を、これからも皆さんに届けられるよう、地元の仲間と一緒に、海藻を増やしていく活動も行っています。

小林雅子:今でこそ健康食品として全国から注目されるアカモク。私は、古くから地域に根ざしているこの食文化の継承者であることを、とても誇りに思います。

小林優大・雅子:豊かな海で育まれた、おいしい海産物を、これからも、皆さんに届けられるよう、全力を尽くします。



【4】ベテラン漁業者からの激励メッセージ

杉本 貢 (秋田県漁業協同組合理事)

若い漁師達の、海を守り、育み、未来へ繋ぐ、決意のこもった力強いメッセージ、とても頼もしく感じました。

これからも、その高い志を胸に、大いに活躍されることを期待します。

佐藤夫妻:私たちは、秋田の海に生きていることに感謝して、

伊藤夫妻:豊かな海づくりを実践し、

小林夫妻:未来を担う子どもたちをしっかりつつないでいくことを、

全 員:ここに誓います。



□ 大会決議

豊かな海づくり大会推進委員会会長
全国漁業協同組合連合会 代表理事会長 **岸 宏**

我が国は四方を海に囲まれ、人々は古来より海と親しみ、豊かな海の恵みを享受してきた。

ここ秋田県は、世界自然遺産の白神山地など雄大な山々を有し、そこから流れ出る清冽な水がやがて日本海へと注ぎ、米どころ秋田を支える肥沃な大地を形成し、豊かな歴史と食文化を培い、地域産業の発展に重要な役割を担ってきた。

我々水産関係者には、水産資源を守り育てつつ、安全で美味しい水産食料を安定的に食卓へ提供し、併せて環境・生態系保全の取組により、豊かな海を永続的に育む責務がある。

新たな令和の時代を迎え、ここ秋田県において、「海づくり つながる未来 豊かな地域」をテーマに、豊饒の海を次世代に引き継ぎ、水産業の振興に向けた取組を一層力強く進めていくことをここに決議する。



□ 大会旗引継

佐竹敬久秋田県知事から次期開催県の村井嘉浩宮城県知事に大会旗を引き継ぎました。



□ 次期開催県あいさつ

宮城県知事 **村井 嘉浩**

本日、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「天皇陛下御即位記念 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」が、このように盛大に開催されましたことを、心からお喜び申し上げます。

来年の大会は、宮城県での開催となります。宮城の海には、季節毎に行き交う黒潮・親潮の豊穰な恵みを受けた世界有数の三陸沖漁場が広がり、気仙沼の鰹、石巻の鯖、塩竈の鮪、そして沿岸の牡蠣やホヤ、海苔の生産などにより、全国屈指の水産県として発展してまいりました。

しかし、あの日、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、宮城の誇る水産業は壊滅的な被害を受け、復活に向けた僅かな希望さえ見つけ難い状況となりました。

あれから8年。全国の皆様から頂いた温かい御支援のもと、かつての豊かな海が蘇りつつあります。

来年は我が県の復興計画の最終年となります。この節目の年に開催される大会を通し、復興を果たした宮城の海を皆様に見て頂き、数々の御支援に心からの感謝を伝えたいと考えています。そして、豊かな海を、輝く未来に向け、守り続けていく決意をお示ししたいと思います。

来年は是非、宮城にお越しください。県民一同、心から皆様のお越しをお待ちしております。

結びに、天皇皇后両陛下の弥栄を心からお祈り申し上げまして、挨拶とさせていただきます。



□ 閉会のことば

秋田県議会議長 **加藤 鉦一**

加藤鉦一秋田県議会議長の「閉会のことば」で式典を終了しました。





□ 表彰式

式典終了後、堀井啓一秋田県副知事が功績団体表彰受賞者と作品コンクール受賞者へ賞状の授与を行いました。



□ あいさつ

秋田県副知事 **堀井 啓一**

本日は、県内外からこのように多くの方々 が式典行事に御参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいま、功績団体及び作品コンクールの表彰をさせていただきました。受賞されました皆様、本当におめでとうございます。

皆様方の日頃の活動に対しまして、改めて敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。

さて、式典行事も終盤となりましたが、午後からは、秋田市内の秋田港飯島地区におきまして、海上歓迎・放流行事を開催することしております。

また、「道の駅あきた港」などでは、ステージイベントや物産販売を通じて本県の水産物の魅力を紹介するとともに、海上歓迎・放流行事の様態をスクリーンで紹介をいたします。

皆様方におかれましては、引き続きお楽しみいただければと思います。

結びに、本大会の開催にあたりまして、お力添え、御尽力を賜りました関係者の皆様に心から厚くお礼を申し上げ、私からのあいさつといたします。皆様、本日は誠にありがとうございました。



□ エピローグ

◎ 郷土芸能

【港ばやし】 港ばやし保存会

【秋田民謡】 秋田県民謡協会、高橋キヌ子社中

秋田の海にかかわる伝統的な演目として、ユネスコ無形文化遺産、土崎神明社祭の曳山行事で山車の上で演奏される「港ばやし」、秋田の海を歌った民謡「秋田船方節」、「本荘追分」、秋田市土崎出身の劇作家・金子洋文が作詞・作曲した新民謡「秋田港の唄」と手踊りが披露された。



◎ フィナーレ

秋田を代表する魚「ハタハタ」を題材にした「秋田ハタハタロック&サンバ」。会場全体で秋田の心意気を表現し、大いに盛り上がり、幕が閉じられた。





□ 受付・昼食会場



式典行事終了後、昼食会場の秋田県立スケート場では、アトラクションとして、国の重要無形文化財で、東北三大祭りの一つである「秋田竿燈まつり」の演技を観覧いただきました。また、竿燈を体感できるふれあい竿燈を行いました。



□ おもてなしコーナー



式典行事会場のおもてなしコーナーにおいて招待者等に、秋田県立男鹿海洋高等学校で製造した「かまぼこ」や、本県オリジナルの「あめこうじ」を活用した甘酒、白神山水、秋田の伝統食の「いぶりがっこ」や「ぎばさ」、「もろこし」を提供し、おもてなしをしました。また、展示ブースでは、大会で使用した伝統工芸品の展示や木材加工技術の紹介等を行いました。

募金活動

公益財団法人漁船海難遺児育英会による募金活動が、あきた海洋少年団の御協力のもと実施され、来場された多くの皆様から総額408,014円の温かい御支援をいただきました。



□ 出演者紹介

● 壇蜜



ナビゲーターを務めました。

● 秋田の高校生

村上雅迪(風大)・三浦莉央(郁美)・伊藤綾真(海斗)



ナビゲーターと共に旅をしました。

● 秋田県立男鹿海洋高等学校郷土芸能部



プロローグでなまはげ太鼓を披露しました。

● ダンススタジオS.T.R a y s

● ダンススタジオS.T.R a y s Jr.



プロローグでダンスを披露しました。

● たなはしあゆこバレエスクール



プロローグでダンスを披露しました。

● 大正寺おけさ保存会

● 秋田和洋女子高等学校郷土文化部



プロローグで大正寺おけさ踊りを披露しました。

● 金浦神楽保存会



プロローグで金浦神楽を披露しました。

● 秋田太陽幼稚園・ベビー園



大会旗入場の先導を務めました。

● 秋田県立男鹿海洋高等学校



大会旗入場の旗手回を務めました。



● 西方 強(ハタハタ)

(秋田県漁業協同組合 北浦総括支所北浦地区代表)



● 湊屋 啓二(サクラマス)

(秋田県内水面漁業協同組合連合会 代表理事会長)



● 齊藤 一成(エゾアワビ)

(秋田県漁業協同組合 象潟根付委員会代表)



● 三浦 幹夫(ワカメ)

(秋田県漁業協同組合 双六コンブ養殖会代表)



天皇皇后両陛下からの稚魚などのお手渡しのお受け手を務めました。

● 秋田県立秋田北高等学校



式典の補助員を務めました。

● 秋田県立秋田北高等学校



お手渡しの介添えを務めました。

● 秋田県立秋田南高等学校吹奏楽部



式典行事の音楽演奏を務めました。

● 佐藤 栄治郎・未来 夫妻

(秋田県漁業協同組合員)



海づくりメッセージを発表しました。

● 伊藤 徳洋・歩 夫妻

(秋田県漁業協同組合員)



● 小林 優大・雅子 夫妻

(秋田県漁業協同組合員)



● 杉本 貢

(秋田県漁業協同組合理事)



● 港ばやし保存会



エピソードで港ばやしを披露しました。

● 秋田県民謡協会 ● 高橋キヌ子社中



エピソードで秋田民謡を披露しました。

● 渡部 絢也

(シンガーソングライター)



エピソードで歌を披露しました。



□ 概要

令和元年9月8日(日)、式典行事に引き続き、秋田港飯島地区において、全国各地からの招待者など364名が参加し、海上歓迎・放流行事を開催しました。漁船等による海上パレードを実施した後、マダイとトラフグの稚魚を放流しました。



□ 進行表

時 間	プログラム	出演者等
12:45	招待者入場開始	
13:26	式典行事録画映像放映(視聴エリア)	
14:30	歓迎演奏	音楽演奏:ノースアジア大学明桜高等学校吹奏楽部
14:41	海上歓迎 漁船等による海上パレード(漁法紹介)	漁船:4隻 官公庁船等:3隻 音楽演奏:ノースアジア大学明桜高等学校吹奏楽部
14:47	第1回御放流(マダイ稚魚)	介添え:秋田県立男鹿海洋高等学校 音楽演奏:ノースアジア大学明桜高等学校吹奏楽部
14:49	第2回御放流(トラフグ稚魚)	
14:51	終了	

司会進行:松田利仁垂(NHKアナウンサー)・坂本愛(フリーアナウンサー)

※台風の影響により、天皇后両陛下は御臨席なされませんでした。



□ 海上歓迎・放流行事会場



秋田県は、県土の7割を森林が占める森林県です。世界遺産の白神山地や日本三大樹氷の森吉山、日本三大美林の秋田杉の産地であり、森で育まれた清流が日本海に注がれて海の恵みを豊かにしています。

御放流所周りは、「豊かな海は豊かな森が育む」をコンセプトに、いにしえの時代から現代まで本県で培われた木材加工技術を随所に活用しています。



御放流所 全景



御放流所の柱目



御放流所からの眺め



海上歓迎・放流行事 司会台

□ おもてなしコーナー・式典行事録画映像放映

会場内のおもてなしコーナーでは、秋田の食文化の紹介を目的に、招待者の皆様に協賛品をはじめとしたふるまいを行いました。

秋田県の特産菓子のもろこしや甘酒、秋田県立男鹿海洋高等学校の学生が作ったかまぼこ、世界遺産白神山地がもたらす白神山水や秋田名産の漬物いぶりがっこのほか、熱中症対策としてスポーツドリンクをふるまいました。視聴エリアでは式典行事録画映像を放映しました。

また、屋外を担当するスタッフを対象に事前に熱中症セミナーを開催し、万全なおもてなし態勢を確立しました。



□ 歓迎演奏

ノースアジア大学明桜高等学校吹奏楽部による「宝島」「オーメンズ・オブ・ラブ」の演奏で、招待者を歓迎しました。





□ 海上歓迎行事(漁法紹介)

ノースアジア大学明桜高等学校吹奏楽部による「交響詩ローマの祭り」の演奏が流れる中、海上パレードを行い代表的な漁法を紹介しました。



□ 参加船一覧

1 漁船

船名	船主	漁法	説明
第百十八兼丸	伊藤 貴洋	底びき網漁業	底びき網漁業は、大きな袋状の網をひき、海底付近にいる魚介類を獲る漁業で、県北、中央、県南の3か所を拠点に、本県をリードする重要な漁法となっている。県の魚「ハタハタ」をはじめ、ヒラメやカレイ、マダイ、エビ、タコなど、季節ごとにいろいろな魚介類を漁獲している。
第三天龍丸	藤原 忠博	定置網漁業	定置網漁業は、海岸近くに大きな網を設置し、回遊する魚を網の奥に誘導して漁獲する漁法である。マグロやブリなどのほか、アジやサバ、サケなども漁獲している。初雪の降るころ、産卵のため大群で岸近くに押し寄せる季節ハタハタを漁獲するのこの定置網漁業の一つである。
新洋丸	藤原 明正	さし網漁業	さし網漁業は、海の中にカーテンのように長い網を張って、そこを通過しようとする魚をからめとる漁法である。場所や季節によって網や張り方を変えて、ヒラメやカレイ、アマダイ、シロギス、サザエなどを漁獲している。
第2文丸	村山 文夫	はえなわ漁業	はえなわ漁業は、釣り針の付いた数十本の仕掛けを、一定間隔でロープに取り付けて海に沈め、一度にたくさんの魚を釣り上げる漁法である。ヒラメやマダラ、アカムツ、メバル、トラフグ、マダイなどを漁獲している。

2 官公庁船等

船名	説明
秋田県漁業取締船くぼた	漁業取締船「くぼた」は、秋田の豊かな海環境と水産資源を未来へと引き継ぐために、漁業の秩序と資源を守る活動をしている。漁業者だけでなく遊漁者の指導にも務めており、県民をあげての豊かな海づくりの実践に寄与している。
秋田県立男鹿海洋高等学校実習船NAMAHAJE	秋田県立男鹿海洋高等学校実習船「NAMAHAJE」は、漁業だけではなくダイビングやクルーズなどの、海洋レジャーの実習にも対応する機能を備えており、秋田の海での活躍を夢見る若者たちを育てている。
秋田県水産振興センター漁業調査指導船千秋丸	最新鋭の機器を備えた「千秋丸」は、海洋観測データ収集や底びき網によるハタハタやヒラメなどの資源調査等、水産資源の持続的利用と漁場環境の保全に寄与している。

□ 参加船の紹介

秋田県漁業協同組合所属の漁船4隻、秋田県立男鹿海洋高等学校実習船1隻、秋田県漁業取締船1隻が海上パレードを行い、本県の代表的な漁法を紹介しました。また、秋田県水産振興センター漁業調査指導船が沖合に停泊し、海上パレードの指揮を執りました。



第一百八兼丸



第三天龍丸



新洋丸



第2文丸



秋田県漁業取締船 くぼた



秋田県立男鹿海洋高等学校実習船 NAMAHAIGE



秋田県水産振興センター漁業調査指導船 千秋丸



□ 稚魚の御放流

ノースアジア大学明桜高等学校吹奏楽部による秋田出身の作曲家「成田為三メドレー（秋田県民歌・浜辺の歌）」が演奏される中、大会会長をはじめ、全国からの招待者がマダイ、トラフグの稚魚を放流しました。
※秋田県立男鹿海洋高等学校の生徒が介添えました。



御放流台の様子



マダイ



トラフグ



招待者による稚魚放流

□ 御放流魚

第1回御放流

◆マダイ



分類:スズキ目タイ科
主な漁法:定置網、釣り、はえなわ、底びき網

秋田沖に産卵場があり、本県では最も古くから種苗放流に取り組んでいる魚種です。漁業者は、水揚げから一定額を抛出し種苗放流を行うほか、14cm未満は漁獲しないなどの資源管理を行っています。

第2回御放流

◆トラフグ



分類:フグ目フグ科
主な漁法:定置網、はえなわ

本県には、日本海側で最北のまとまった産卵場があり、好漁場としても知られています。資源の増大を目指して、放流技術の確立に向け研究を行っています。

□ 出演者紹介

● ノースアジア大学明桜高等学校吹奏楽部



海上歓迎・放流行事の音楽演奏を披露しました。

● 秋田県立男鹿海洋高等学校



御放流の介添えなどを務めました。

● 秋田県立男鹿海洋高等学校実習船 NAMAHAJE



海上歓迎行事で海上パレードを披露しました。

● 第百十八兼丸



海上歓迎行事で海上パレードを披露しました。

● 第三天龍丸



海上歓迎行事で海上パレードを披露しました。

● 新洋丸



海上歓迎行事で海上パレードを披露しました。

● 第2文丸



海上歓迎行事で海上パレードを披露しました。

● 秋田県漁業取締船 くぼた



海上歓迎行事で海上パレードを披露しました。

● 秋田県水産振興センター漁業調査指導船 千秋丸



海上歓迎行事で海上パレードを指揮しました。

お手渡し容器・御放流容器等



お手渡し容器や御放流容器、御放流台は「豊かな海は豊かな森が育む」ことをコンセプトに製作しました。本県は、県土の7割を森林が占めており、この豊かで美しい森で育まれた清流が、河川となり大地を潤し、日本海に注がれ、本県の豊かな海を形成しています。

これらの容器等には、

豊かな森の恵みが稚魚を守り、そして大海に放流することを象徴し、

次世代への豊かな海の継承を願う気持ち

が込められています。

□ お手渡し容器

この容器は、「大館曲げわっぱ」の技術を活用し、天然秋田杉を使って製作しました。



大館曲げわっぱは全国の数ある曲げ物のうち、国が指定した唯一の伝統工芸品であり、また秋田杉は、日本三大美林の一つで、「県の木」に定められている本県を代表する木材です。



お手渡し魚種等：ハタハタ/エゾアワビ/ワカメ/サクラマス

□ 御放流容器

この容器は、持ち手、底面、側面を、「アケビ蔓細工」と「クルミ樹皮細工」の技術を用いて装飾しました。



アケビ蔓やクルミ樹皮は本県の里山に多く自生している植物。採取した時の気候や場所により、素材の表情が異なることが魅力のひとつ。容器は、こうした素材を一つひとつ手編みで装飾した一点物です。透明な蓋を付設し、稚魚がよく見えるようにしています。



放流魚：
マダイ/トラフグ

本県の御放流台が宮城県へ

本県で製作した御放流台が、次期開催県である宮城県に引き継がれることになりました。

御放流台は、次世代への豊かな海の承継を願う気持ちを込め、本県が誇る木材加工技術を随所に活用し完成させました。

しかしながら、台風の影響で、天皇皇后両陛下に御放流いただくことが叶いませんでした。

同じ東北で開催される宮城大会で、本県の思いも込めた御放流が実現することを心よりお祈りいたします。





作品コンクール(絵画・習字)優秀作品御覧



□ 概要

大会行事の一環として実施した作品コンクール(絵画・習字)の優秀作品(秋田県知事賞受賞作品)を天皇皇后両陛下に御覧いただき、受賞者の児童・生徒一人ひとりにお声をかけていただきました。

◎期日 令和元年9月7日(土)

◎会場 秋田キャッスルホテル



□ 進行表

時間	次第	参加者等
17:03	天皇皇后両陛下御着	御先導: 秋田県知事
	絵画・習字優秀作品御覧	御説明: 秋田県教育委員会教育長 受賞者: 秋田県知事賞受賞者6名 絵画部門 小学生(低・高学年)、中学生 計3名 習字部門 小学生(低・高学年)、中学生 計3名
17:18	天皇皇后両陛下御発	御先導: 秋田県知事

□ 受賞者・受賞作品

◎「絵画」秋田県知事賞

- 小学校低学年の部 佐藤 湊斗 (秋田市立勝平小学校) 「くじらとせかい一周」
- 小学校高学年の部 菊地美咲妃 (秋田市立勝平小学校) 「未来に輝く海」
- 中学校の部 大山 瑠菜 (秋田市立桜中学校) 「時を越えて」

◎「習字」秋田県知事賞

- 小学校低学年の部 佐藤 蘭奈 (大館市立扇田小学校) 「うみ」
- 小学校高学年の部 三村 睦 (潟上市立飯田川小学校) 「豊かな海」
- 中学校の部 武田 美虹 (男鹿市立男鹿南中学校) 「海の恩恵」





□ 概要

天皇皇后両陛下御臨席のもと、県内外の大会関係者を招待し、魚介類をはじめとする本県の農林水産物を豊富に使った料理と地酒などでおもてなしをしました。天皇皇后両陛下には、功績団体表彰受賞者や県内漁業関係者等と親しく御懇談いただき、和やかな雰囲気にも包まれました。

◎期日 令和元年9月7日(土)

◎会場 秋田キャッスルホテル



□ 進行表

時間	次第	参加者等
17:30	天皇皇后両陛下御臨席	〈先導〉秋田県知事
	開宴のことば	秋田県副知事
17:31	主催者あいさつ	秋田県知事
17:33	歓迎のことば	秋田市長
17:34	乾杯	大会会長(衆議院議長)
17:35	御懇談	秋田県知事・令婦人、若手漁業者夫妻、秋田県指導漁業士、お受け者、功績団体表彰受賞者、宮城県知事
17:55	天皇皇后両陛下御退席	〈先導〉秋田県知事
17:57	歓談	
18:29	終宴のことば	秋田県議会議長
18:30	終了	

司会進行:大島貴志子(フリーアナウンサー)

□ 主催者あいさつ

秋田県知事 佐竹 敬久

本日ここに、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「天皇陛下御即位記念 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」の「歓迎レセプション」を開催できますことは、誠に光栄に存じます。

秋田県民を代表し、天皇皇后両陛下の御来県を心から歓迎申し上げます。

本県は、四季折々に異なった姿を見せる美しい自然環境に恵まれ、人情味あふれる風土や地域に根ざした伝統文化が受け継がれ、山に積もった雪が、春に雪どけ水となって大地を潤す、日本有数の米どころでございます。

一方、日本海からは、ハタハタに代表される多種多様な魚介類やギバサをはじめとする海藻など、様々な水産資源を得るとともに、豊かな食文化を育ててまいっております。

本日は、こうした秋田を代表する食材を厳選し、秋田沖で水揚げされました新鮮な海産物の料理をはじめ、きりたんぼなどの郷土料理、そして料理を引き立てるおいしい地酒を御用意しております。秋田ならではの味覚を存分に御堪能いただきながら、時間の許す限り、ごゆっくりと御歓談くださいれば、幸いです。

結びに、天皇皇后両陛下の益々の御健勝と御繁栄、そして、本日御参加の皆様の御多幸を心より御祈念申し上げ、私の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございます。



□ 歓迎のことば

秋田市長 穂積 志

本日、ここに天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「天皇陛下御即位記念 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」の歓迎レセプションが開催されますことは、誠に喜ばしい限りです。

全国各地より秋田市へお越しいただいた皆様を、心から歓迎申し上げます。

ここ秋田市は、「北限のふぐ」やハタハタなど周辺海域の海の幸に加え、市街地の周りに肥沃な農地を抱える米どころであります。

また、豊かな水資源を生かした醸造が盛んであり、品質の高い日本酒のほか、魚醤「しよつる」の発祥地とも言われるなど、伝統的な食文化が形成されてきました。

本日は、この秋田の食と地酒を存分に御堪能いただければと思います。

結びに、天皇皇后両陛下の益々の御健勝と御繁栄、そして、本日御参加の皆様の御多幸をお祈り申し上げます。歓迎のことばといたします。

本日は誠にありがとうございます。





□ 歓迎レセプションメニュー

◎乾杯酒

◇天の戸 純米大吟醸 35

◎テーブル料理

◇いぶりがっこクリームチーズのカナッペ盛り合わせ

◇秋田の枝豆と地場産野菜盛り合わせ

◇秋田名物 ハタハタ寿司

◎屋台料理

◇柔らかな秋田牛ローストビーフ香味和風ソース

◇秋田名物 きりたんぼ鍋

◇あおさ香る 稲庭うどん

◎buffet

◇秋田風和洋前菜盛り合わせ

・ 八郎瀧の佃煮

・ 男鹿産サザエのブルギニヨン風

・ 蛸とギバサのポン酢

・ 県産ポークリエットのキッシュパイ

◇秋田沖鮮魚と各種魚介のお造り仕立て

◇東由利産フランス鴨の香味焼き 季節野菜添え

◇八幡平塩豚のグリル 焼き野菜添え ゴマ油の香り

◇日本海沖平目の照り煮 煮野菜を添えて

◇男鹿産真鯛の塩釜包み焼き ショロンソースと一緒に

◇季節のフルーツとプチデザートのお盛り合わせ



※当日配布のしおり





関連行事「豊かな海づくりフェスタ in あきた」



□ 概要

天皇陛下御即位記念 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会の関連行事として、「秋田の豊かな海の恵みに会う2日間」をコンセプトに『豊かな海づくりフェスタinあきた』を開催しました。

日 時／令和元年9月7日(土) 10:00～16:00
9月8日(日) 10:00～16:00

場 所／道の駅あきた港

来場者／9月7日: 15,907名
9月8日: 19,046名



□ グルメ・物販エリア

地魚をその場で焼いて食べられるバーベキューコーナーや魚介類・水産加工品をメインとした飲食・物販、秋田県の特産品販売、秋田県立男鹿海洋高等学校の生徒たちが実習で制作した「さばの水煮缶詰」や「かまぼこ」等の販売、地魚料理「しよつづる鯛茶漬け」のふるまいなど、秋田の豊かな恵みを丸ごと実感していただけるブースを展開しました。



【出展者（ブース名）】

(有)秋田観光／秋田県漁業協同組合／秋田県ハタハタ加工産業振興協議会／秋田県立男鹿海洋高等学校／あきたのギバサ研究会／(株)秋田まるごと加工／秋田屋台村田舎料理なかや／(株)あくら／いこい／Aプランニング／(株)おかず家／男鹿海鮮料理三代目ほたる／川魚の茶屋／光琳グループ／コジコジ秋田駅前店／兎玉冷凍／しよつづる研究会／(有)進藤冷凍／(株)鈴木水産／千寿し／竹嶋／千釜冷凍／中央菓工きた／TKフーズ／天下屋／なごみや／BARいしだりゆういち／船幸水産／(有)松田酒店／三和商事(株)旬魚房匠／涉水産／秋田牛ブランド推進協議会／秋田県比内地鶏ブランド認証推進協議会





関連行事「豊かな海づくりフェスタ in あきた」

□ ふれあい体験エリア

魚や海の生き物に触れ合える、「アユのつかみ取り体験」や男鹿水族館GAOによる「おでかけ水族館」、「海藻おしば体験」など海や河川に棲む生物に興味や親しみを持てるようなブースを展開しました。また、漁業関係者向けの活魚水槽の展示や秋田犬を観覧できるコーナーなども出展しました。



【出展者（ブース名）】

男鹿水族館GAO／海藻おしば協会・海の駅ネットワーク／株式会社阿仁川あゆセンター／公益社団法人秋田犬保存会／日建リース工業株式会社

□ 企画展示エリア

『ハタハタ水族館』と題して、県の魚であるハタハタのパネルや、稚魚の水槽を展示しました。また、あきたの豊かな海を「知る」「学ぶ」「未来へ」をテーマに秋田の地魚や食文化・環境保全・資源を守る取組に関するパネル、秋田の美しい海の風景を紹介するインスタグラム写真、豊かな海づくり大会の作品コンクール入賞作品、秋田の工芸品などを展示しました。



【展示協力】

男鹿水族館GAO／秋田県立男鹿海洋高等学校／秋田県水産振興センター／横手市増田まんが美術館／あきたびじょんinstagram／国土交通省 東北地方整備局 秋田港湾事務所／海上保安庁 秋田海上保安部／しよつづる研究会／秋田県つり連合会／あきた海洋少年団／大館曲げわっぱ協同組合／有限会社柴田慶信商店／樹皮工房山の恵／角館工芸協同組合／株式会社丸松銘木店／株式会社渡辺事業所

「秋田の地魚を使った新商品」の開発・販売

秋田県漁業協同組合や食品加工事業者団体などで構成する「秋田の地魚消費拡大協議会」の会員が、大会の開催にあわせ、新たな商品を開発し、会場で販売しました。

また、新商品PRの為にリーフレットを作成し、会場内で配布しました。



新商品リーフレット



関連行事「豊かな海づくりフェスタ in あきた」

□ ステージイベント

秋田の海や地魚についての関心・知識を深めてもらうクイズや、大人気さかなクンのトークショー、地魚料理を紹介する料理ショー、県内で活躍する団体による演奏・演舞など多彩なステージイベントを展開しました。

◎9月7日(土)



秋田県立秋田中央高等学校吹奏楽部

ステージスケジュール	
10:00	オープニング演奏 (秋田県立秋田中央高等学校吹奏楽部)
10:50	秋田の海を知ろう！地魚クイズ (全国豊かな海づくり大会・あきた大会広報キャラバン隊)
11:10	書道パフォーマンス (秋田県立能代松陽高等学校書道部)
11:40	超神ネイガースhow ～豊かな海を守る！編～
12:20	地魚料理ショー (料理研究家 野口かおりさん)
13:10	後催県PRキャラバン (第40回全国豊かな海づくり大会宮城県実行委員会)
13:30	一輪車パフォーマンス (白百合保育園一輪車クラブ)
14:00	伝統芸能 (土崎港ばやし保存港和会)
14:30	民謡披露 (梅若流梅若会)
15:00	超神ネイガースhow ～豊かな海を守る！編～



全国豊かな海づくり大会・あきた大会広報キャラバン隊



秋田県立能代松陽高等学校書道部



白百合保育園一輪車クラブ



料理研究家 野口かおりさん



第40回全国豊かな海づくり大会
宮城県実行委員会



土崎港ばやし保存港和会



梅若流梅若会



超神ネイガー



関連行事「豊かな海づくりフェスタ in あきた」

◎9月8日(日)



さかなクン

ステージスケジュール	
10:00	オープニング演奏 (やまばと太鼓)
10:25	秋田の海を知ろう！地魚クイズ (全国豊かな海づくり大会・あきた大会広報キャラバン隊)
10:40	映像放映①(式典行事)
11:30	なまはげ太鼓 (NAMAHAIGE郷神楽)
12:00	伝統芸能 (西馬音内盆踊保存会)
12:30	ギョギョッとびっくりお魚教室! (さかなクン)
13:30	映像放映②(式典行事 録画)
14:10	後催県PRキャラバン (第40回全国豊かな海づくり大会宮城県実行委員会)
14:35	映像放映③(海上歓迎・放流行事)
15:00	ギョギョッとびっくりお魚教室! (さかなクン)
15:40	郷土芸能 (秋田県立由利高等学校民謡部)



秋田県立由利高等学校民謡部



映像放映 (式典行事、海上歓迎・放流行事)



やまばと太鼓



NAMAHAIGE 郷神楽



西馬音内盆踊保存会

□ その他

◎後催県 PR、海・環境に関するブース

次期開催の宮城県による「笹かまぼこ焼き体験」や、海や環境に関わる団体が出展しました。



【出展者(ブース名)】

- ・第40回全国豊かな海づくり大会宮城県実行委員会
- ・国立研究開発法人水産研究・教育機構
- ・公益財団法人漁船海難遭児育英会
- ・公益社団法人秋田県緑化推進委員会

◎招待者昼食会場でのおもてなし

セリオンプラザでは、海上歓迎・放流行事招待者の昼食に合わせて「しよつつるスープ」をふるまいました。

【協力団体】

- ・しよつつる研究会
- ・あきたのギバサ研究会



◎スタンプラリー

会場周遊企画として「スタンプラリー」を実施しました。会場内3カ所にスタンプを設置し、全て集めた方には大会ノベルティグッズをプレゼントしました。





□ 秋田駅周辺会場



- ①まるごと 秋田・男鹿・潟上^{いち}市 by「農家のパーティ」ネットワーク
 日 時／令和元年9月7日(土) 9:30～16:00
 9月8日(日) 9:30～16:00
 会 場／秋田駅前買物広場大屋根下
 内 容／◎式典行事、海上歓迎・放流行事の映像中継
 ◎地元食材を活かした飲食ブースや加工品販売
 来場者／両日合計6,400名



- ②第55回海洋教育フォーラムin秋田
 日 時／令和元年9月7日(土)13:00～16:30
 会 場／秋田拠点センターアルヴェ 2階多目的ホール
 内 容／◎海の研究の最前線に関する講演会等
 来場者／210名



- ③「海と地球を学ぼうin秋田」 提供:JAMSTEC & 秋田大学鉱業博物館
 日 時／令和元年9月7日(土) 10:00～17:00
 9月8日(日) 10:00～16:00
 会 場／秋田拠点センターアルヴェ 1階きらめき広場
 内 容／◎海や地球、深海に関する写真展示や映像放映等



- ④ワンダフルパズールあきた散歩
 日 時／令和元年9月7日(土) 9:30～16:00
 9月8日(日) 9:30～16:00
 会 場／JR秋田駅東西連絡自由通路(ほぼろード)
 内 容／◎県内の農畜産物や加工品、お菓子などの販売



- ⑤軽トラガーデン・コンテスト2019
 日 時／令和元年9月7日(土) 10:00～17:00
 9月8日(日) 10:00～17:00
 会 場／アゴラ広場
 内 容／◎ミニ庭園の展示、造園相談、苗木の販売等
 ◎竿燈演技

関連行事「秋田港クルーズ列車」

9月7日(土)・8日(日)の両日、関連行事会場をつなぐ「秋田港クルーズ列車」を東日本旅客鉄道株式会社秋田支社にご協力いただき、特別運行しました。



また、JR秋田港駅では列車の発着に合わせて竿燈妙技やお囃子を披露し、ご来場のお客様をおもてなしました。



□ 男鹿ぐるめマーケット2019

日 時／令和元年9月7日(土)10:00～15:00
9月8日(日)10:00～15:00

会 場／JR男鹿駅及び道の駅おが

内 容／◎式典行事、海上歓迎・放流行事の映像中継

◎海鮮バーベキュー、地魚や地元の農産物の直売、マグロの解体ショー、鍋のふるまい

来場者／9月7日：1,700名、9月8日2,000名



□ にかほグルメまつり

日 時／令和元年9月7日(土)10:00～15:00
9月8日(日)10:00～15:00

会 場／にかほ市観光拠点センター「にかほっと」前特設会場

内 容／◎式典行事、海上歓迎・放流行事の映像中継

◎海鮮バーベキュー、秋田由利牛や地魚、地元の農産物の直売

来場者／9月7日：1,800名、9月8日2,000名



□ 豊かな海の産直まつりin八峰

日 時／令和元年9月7日(土)9:00～16:00
9月8日(日)9:00～16:00

会 場／秋田県漁業協同組合北部総括支所・八森観光市

内 容／◎式典行事、海上歓迎・放流行事の映像中継

◎海の幸バーベキュー、漁船乗船体験、競り体験、漁協施設視察、地魚や地元の農産物の直売

来場者／9月7日：250名、9月8日750名



お手渡し魚等の記念放流



海づくり大会の式典行事で天皇皇后両陛下からお手渡しいただいた稚魚等の放流を10月から11月にかけて行いました。大会を通じて、さらに「つくり育てる漁業」の輪が広がっていくことを願っております。

□ サクラマス



10月20日に、藤里町の藤琴川でサクラマスの放流を行いました。

秋田県内水面漁業協同組合連合会の主催で、関係者や地域住民ら約70人が参加し、稚魚約500尾を放流しました。



□ エゾアワビ



10月21日に、にかほ市の秋田県漁業協同組合象潟支所付近でエゾアワビの放流を行いました。

秋田県漁業協同組合南部総括支所象潟根付委員会の主催で、3,000個の稚貝を海に放流しました。



□ ワカメ



11月3日に、男鹿市の樺漁港双六分港付近の沖合でワカメの沖出しを行いました。

秋田県漁業協同組合船川総括支所双六コンブ養殖会の主催で、ワカメの胞子がついた種糸を巻いたロープを海に沈めました。

また、作業には秋田県立男鹿海洋高等学校の生徒も協力しました。



□ ハタハタ



11月13日に、男鹿市の船川沖で秋田県漁業協同組合北浦総括支所がお受けしたハタハタの放流を行いました。

稚魚の成育に適した場所に放流するため、県漁業調査指導船「千秋丸」で沿岸から約30キロの海域に行き、放流器を水深約200メートルの海中に沈めて約100匹を放ちました。





天皇陛下御即位記念
第39回 全国豊かな海づくり大会
海づくり つながる未来 豊かな地域 あきた大会

大会開催のあゆみ

大会開催経過



□ 平成28年度

5月23日	大会招致を知事が表明
6月22日	豊かな海づくり大会推進委員会へ開催申出書を提出
9月 1日	豊かな海づくり大会推進委員会が平成31年度本県開催を決定
9月 5日	定例記者会見で、知事が開催決定を公表
9月10日・11日	第36回全国豊かな海づくり大会山形大会を視察
9月23日	県議会(農林水産委員会)で開催決定を報告
1月11日	第39回全国豊かな海づくり大会秋田県準備委員会(第1回)を開催

□ 平成29年度

4月 1日	水産漁港課内に全国豊かな海づくり大会担当職員2名専任体制
6月 1日	第39回全国豊かな海づくり大会秋田県準備委員会(第2回)を開催
7月11日	第39回全国豊かな海づくり大会秋田県準備委員会(第3回)を開催
8月18日	第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会(第1回)を開催
9月 1日	職員2名増により、担当職員4名の専任体制
9月11日	大会テーマ及び大会キャラクターコスチュームデザインを募集(~11月24日)
9月28日	秋田県実行委員会幹事会(第1回)を開催
10月 3日	職員1名増により、担当職員5名の専任体制
10月28日・29日	第37回全国豊かな海づくり大会福岡大会を視察
11月11日・12日	「第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会開催記念サンキュー!!地魚フェスティバル~秋田ととフェス~」を開催
12月 1日	職員1名増により、担当職員6名の専任体制
3月22日	秋田県実行委員会幹事会(第2回)を開催

□ 平成30年度

4月 1日	水産漁港課内に全国豊かな海づくり大会推進室を設置(専任職員13名)
4月 8日	県民総合リレー放流の開始(年度内に22回実施、参加人数1,468名)
4月10日	宿泊・輸送等実施業務委託企画提案競技に係る説明会を開催



大会開催経過

4月12日	大会実施計画(案)作成等業務委託企画提案競技説明会を開催
4月26日	第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会(第2回)を開催 (基本計画の決定、大会テーマ及び大会キャラクターコスチュームデザイン決定)
5月15日	大会実施計画(案)作成等業務委託企画提案競技審査委員会を開催
5月31日	宿泊・輸送等実施業務委託企画提案競技審査会を開催
7月24日	公式ウェブサイト制作保守管理業務委託企画提案競技審査委員会を開催
8月 3日	広報宣伝業務委託企画提案競技審査委員会を開催
9月 7日	大会公式ウェブサイトを開設
9月29日	大会PRキャラバン隊活動開始(年度内に12回実施)
9月29日・30日	「第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会1年前プレイベント地魚フェスティバル～2018～」を開催 (台風のため、9月30日は中止)
10月27日・28日	明治150年記念第38回全国豊かな海づくり大会～高知家大会～に参加 (大会旗を引継ぎ)
11月29日	大会公式弁当決定
12月 7日	大会開催日決定
1月28日	秋田のさかなを食べようキャンペーン開始
2月 6日	豊かな海づくり大会推進委員会幹事会(第2回)で基本計画について説明
3月 1日	秋田県実行委員会幹事会(第3回)を開催
3月13日	第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会(第3回)を開催 (第39回全国豊かな海づくり大会実施計画決定)

□ 令和元年度

4月 1日	全国豊かな海づくり大会推進室の人員体制を強化(専任職員14名、兼務職員3名)
4月 1日	作品コンクール作品募集開始(～5月24日)
4月 7日	県民総合リレー放流の開始(年度内に37回実施、参加人数3,115名)
4月 8日	第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実施本部を設置
4月18日	公式ポスター審査会の開催
4月20日	大会PRキャラバン隊活動開始(年度内に13回実施)
5月 8日	豊かな海づくり大会推進委員会幹事会(第1回)参加
5月17日	大会名称を「天皇陛下御即位記念第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」に変更

大会開催経過

5月18日・19日	「天皇陛下御即位記念第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会開催記念イベント 地魚フェスティバル～2019～」を開催
6月20日	宮内庁へお執り成し書を提出
6月27日	秋田県実施本部推進チーム員に係る説明会を開始(8月上旬まで述べ25回)
6月28日	宮内庁事前調査前会議
7月 8日	宮内庁事前調査(～9日)
7月13日	第39回全国豊かな海づくり大会開催記念 「令和元年度全国一斉海浜清掃旗揚げ式八峰町海岸クリーンアップ」
7月15日	きれいな海を未来につなごう♪クリーンアップ大作戦 (海上歓迎・放流行事会場の清掃ボランティア活動)
7月24日	熱中症対策セミナー開催(対象:大会推進チーム員、参加者約100名)
7月27日	海上歓迎・放流行事1か月前リハーサル
8月 8日	宮内庁が行幸啓の正式決定を発表
8月10日	式典行事1か月前リハーサル
8月28日	行幸啓取材説明会(～29日)
9月 6日	宮内庁先着供奉員による現地調査
9月7日・8日	天皇陛下御即位記念第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会を開催 ・式典行事 ・海上歓迎・放流行事 ・作品コンクール(絵画・習字)優秀作品御覧、歓迎レセプション ・関連行事:豊かな海づくりフェスタinあきた ほか
10月 1日	全国豊かな海づくり大会推進室を専任職員11名に変更
10月20日	お手渡し魚等の記念放流(サクラマス:藤里町)
10月21日	お手渡し魚等の記念放流(エゾアワビ:にかほ市)
11月 1日	全国豊かな海づくり大会推進室を専任職員9名に変更
11月 3日	お手渡し魚等の記念放流(ワカメ:男鹿市)
11月13日	お手渡し魚等の記念放流(ハタハタ:男鹿市)
12月 1日	全国豊かな海づくり大会推進室を専任職員7名に変更
2月17日	豊かな海づくり大会推進委員会幹事会(第2回)参加
3月25日	第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会(第4回)を開催



大会テーマ・大会キャラクターコスチューム



大会の開催を広くPRし、大会の機運を醸成するため、大会テーマ及び大会キャラクターコスチュームデザインを募集し決定しました。

□ 大会テーマ

- ◎募集期間 平成29年9月11日(月)～平成29年11月24日(金)
- ◎応募資格 秋田県内在住の小学生以上の方
- ◎募集内容 大会の開催目的と基本理念を簡潔に表現した覚えやすい標語・スローガン
- ◎応募総数 481件
- ◎受賞者 大仙市立大曲南中学校3年 佐々木柚歌
- ◎最優秀賞

「海づくり つながる未来 豊かな地域」



【優秀賞】

秋田県立仁賀保高等学校／相馬 千夏 大仙市立大曲南中学校／最上 純聖 秋田市立勝平小学校／大橋 響

【佳作】

潟上市立東湖小学校／鎌田 芽依 秋田市立勝平小学校／小玉 紗貴 秋田市立勝平中学校／石黒 寿一
秋田県立仁賀保高等学校／今野 美香 秋田市／伊東 富美子

□ 大会キャラクターコスチュームデザイン

- ◎募集期間 平成29年9月11日(月)～平成29年11月24日(金)
- ◎応募資格 秋田県内在住の小学生以上の方
- ◎募集内容 秋田県PRキャラクター「んだッチ」の大会専用コスチュームデザインのカラーイラスト画
- ◎応募総数 823件
- ◎受賞者 秋田市 松山亜耶
- ◎最優秀賞



【優秀賞】

秋田県立仁賀保高等学校／中田 有希乃 秋田県立仁賀保高等学校／田口 紗和 秋田市立御野場中学校／櫻庭 遥歌

【佳作】

秋田県立由利高等学校／三浦 萌 大仙市立花館小学校／加賀谷 はな 秋田県立仁賀保高等学校／齋藤 瑠南
秋田市立土崎中学校／齊藤 風花 大仙市立横堀小学校／細井 藍花

※学校名は応募当時のものです。



海の幸・山の幸・里の恵みなど豊富な「食の宝庫あきた」の味を参加者に堪能して頂けるよう、郷土料理に精通している方に監修いただきました。

◆秋田を代表する魚料理（上段）

- 秋田の県魚「ハタハタ」南蛮漬け
- サクラマス塩麹漬の焼き物
- 伝統料理「カスベ煮」と「じゅんさい」のしょつつる寒天寄せ

◆秋田の特産野菜等・果物・甘味（中段）

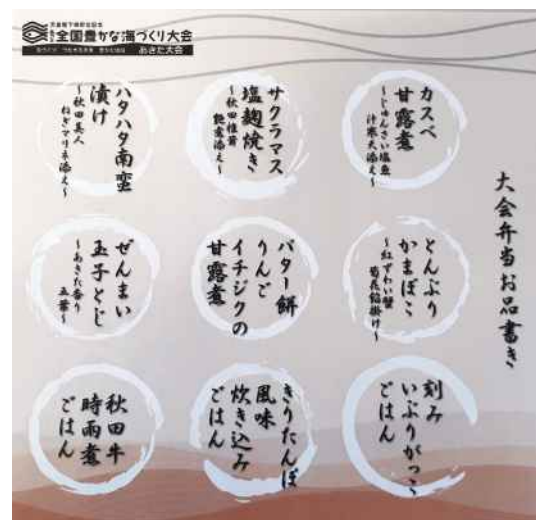
- ぜんまい卵とじと秋田のオリジナル枝豆「あきた香り五葉」添え
- デザート「イチジク甘露煮」、「バター餅」、「平鹿産りんご」
- 特産「とんぶり」入りかまぼこと、菊花と紅ずわいがにの餡がけ

◆「あきたこまち」の味比べごはん（下段）

- 「秋田牛」甘辛時雨煮のせごはん
- 比内地鶏の御狩場焼き添え
きりたんぼ鍋風味炊き込みごはん
- 刻み「いぶりがっこ」トッピングの酢飯



○大会公式弁当メニュー監修
株式会社水屋光琳 総料理長 鈴木 清



○大会公式弁当のパッケージとお品書き



各種PRイベント「サンキュー!!地魚フェスティバル～秋田ととフェス」



「第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」の周知と開催に向けた機運の醸成を図るとともに、県民に水産資源や漁業に理解を深めてもらい、県産水産物の消費拡大につなげることを狙いとした「地魚フェスティバル～秋田ととフェス～」を開催しました。

□ 概要

日 時／平成29年11月11日(土)10:00～16:00
11月12日(日)10:00～17:00

※悪天候により、開催内容を一部変更しました。

場 所／秋田駅前アゴラ広場(駅前買物広場大屋根下)

内 容／◎飲食・物販ブース

秋田県立男鹿海洋高等学校特製「さばの水煮缶詰」の限定販売や番屋の母さんの「魚のふるまい鍋」、秋田の水産物を販売するブースなどが出展しました。

◎ステージイベント

秋田県立男鹿海洋高等学校食品化学科による商品開発の研究発表や、魚に合う素敵なお酒を紹介する「酒の肴トークショー」、秋田県水産振興センターの職員によるお魚クイズなど地魚についての関心・知識を深めてもらうステージイベントを実施しました。

◎展示ブース

秋田の水産業や漁業の特色を紹介するパネルや、海や自然にまつわる情報を展示しました。
※秋田県水産振興センターによる「タッチプール」は荒天により中止となりました。





各種PRイベント「1年前プレイベント」



「第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」の開催に向けた機運の醸成を図るとともに、大会1年前を記念した1年前プレイベント「地魚フェスティバル～2018～」を開催しました。

□ 概要

日時／平成30年9月29日(土)10:00～16:00
9月30日(日)10:00～15:00 ※悪天候により中止

場所／道の駅あきた港

内容／◎記念式典・稚魚記念放流 ※悪天候により中止

◎飲食・物販ブース

魚介類をその場で自分で焼いて食べられる「地魚BBQ」や、7つの味を体験できる「しょつつるテイスティング」、「ふるまい鍋」など県産の水産物を楽しめるブース等が出展しました。

◎ステージイベント

秋田県立男鹿海洋高等学校「なまはげ太鼓」で始まり、マンガ家 倉田よしみさんと料理研究家 野口かおりさんによる「土崎湊とあきたの魚」トーク・ふるまいショー、若手漁業者による「漁師になろう」トークショーなど、あきたの豊かな海や地魚についての関心・知識を深めてもらうステージイベントを展開しました。

◎体験ブース

約200匹の地魚を集めた「お魚ふれあいプール」、男鹿水族館GAOの「お出かけ水族館」など海や河川の生き物に触れる体験ブースや、漁師気分を味わってもらう「漁船クルーズ体験」を実施しました。

◎企画展示

「お魚ミュージアム」と題して、本大会の放流魚・お手渡し魚種の水槽展示、秋田の地魚や食文化、漁業の特色などを紹介するパネル展示、秋田の水産業PR映像「さかなきた」の上映など、あきたの豊かな海を守り育て将来に引き継いでいくことの大切さを広く発信しました。

◎県産魚介類直売会「～美の国あきた 海味（うみ）めぐり～」

秋田の旬の魚介を紹介し、購入できる直売会を開催しました。



地魚 BBQ テレビ中継



お魚ふれあいプール



各種PRイベント「100日前記念イベント」



「第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」の周知と開催に向けた機運の醸成を図るため、100日前を記念したイベント「地魚フェスティバル～2019～」を開催しました。

□ 概要

日時／令和元年5月18日(土)10:00～16:00
5月19日(日)10:00～15:00

場所／道の駅あきた港

内容／◎飲食・物販ブース

秋田産の魚介食材を焼いて食べられる「地魚BBQ」や、「しょつぷるおでん」、「男鹿のしょつぷる焼きそば」など秋田の「うまい」を集めた飲食・物販ブースを展開しました。

◎体験ブース

秋田港周辺の海を巡る「漁船クルーズ体験」や、「お魚ふれあいプール」、男鹿水族館GAOの「お出かけ水族館」などを実施しました。

◎秋田のさかなを食べようキャンペーン

県産水産物の消費拡大を図り、味の素・カゴメ・キューピー・ハウス食品・秋田県によるこの時期の旬の地魚「鯛」のレシピを紹介しました。

◎地魚ふるまい鍋

旬の地魚を使った「戸賀番屋のかあちゃんのふるまい鍋」。18日「秋田産鮭の味噌仕立てしょつぷる風味」、19日「旬のウマツラハギの味噌仕立てしょつぷる風味」の鍋料理を両日200名の方へふるまいました。

◎県産魚介類直売会「～美の国あきた 海味（うみ）めぐり～」

漁船4隻から獲れたての秋田の地魚をそのまま水揚げし、隣接した直売センターにて販売しました。多くの来場者は、運び出される鮮魚や働く漁師の姿に感動し、お目当ての魚を我先にと買い求めていました。



地魚の水揚げ



地魚の直売



秋田のさかなを食べようキャンペーン



「第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」の開催を記念して、県産地魚の認知度向上と消費量拡大を図り、水産業と地域の活性化を図ることを目的とした「秋田のさかなを食べようキャンペーン」を実施しました。

このキャンペーンは、魚食の新たな魅力の発見や本県魚食文化の継承を目的に、県と連携協定を締結している小売店で、季節ごとの魚介を使った各食品メーカーのレシピや本県伝統食のレシピを提供するものです。



平成31年1月28日、秋田市のイオンスタイル御所野でオープニングセレモニーを行いました。



100日前記念イベントや、関連行事「豊かな海づくりフェスタinあきた」にブースを設け、県産魚類を使ったレシピの紹介を行いました。

◎提供したレシピ

白身魚の コチュマヨソース	白身魚の トマトパッツア	白身魚とパプリカの あえサラダ	白身魚の ハーブムニエル	揚げ魚の しょっつる漬け
				
味の素株式会社	カゴメ株式会社	キューピー株式会社	ハウス食品株式会社	秋田県
鱈の極みだし鍋	鱈と秋田県産野菜の トマトパッツア	鱈と長いもと春菊の サラダ	たらと小松菜の シチュー	鱈の子炒り
				
味の素株式会社	カゴメ株式会社	キューピー株式会社	ハウス食品株式会社	秋田県
たけのこ入りの 簡単たいめし	鯛のトマトパッツア	鯛のカルパッチョ (黒酢玉ねぎ仕立て)	鯛のハーブ カルパッチョ	鯛のしょっつる 海藻蒸し
				
味の素株式会社	カゴメ株式会社	キューピー株式会社	ハウス食品株式会社	秋田県

県庁食堂で日替わりランチメニューの提供

県庁食堂のランチメニューとして「秋田のさかなを食べようキャンペーン」のレシピを期間限定日替わりで提供しました。令和2年1月27日～2月28日の期間は、旬のタラの味を楽しんでいただきました。金曜日には県庁食堂料理長によるオリジナルレシピを提供するなど、多くの方々に地魚の新たな魅力を伝える契機になりました。



県民総合リレー放流



「県民総合リレー放流」は、第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会を県内全域で盛り上げ、環境保全の大切さとつくり育てる漁業の取り組みの啓蒙を図るために開催しました。

県内のべ69か所で約5,500人の方が参加しました。

◆平成29年度 県民総合リレー放流

回数	実施日	イベント名	市町村	参加人数
1	6月2日	稚アユ放流事業	由利本荘市	31
2	6月4日	稚アユ放流事業	秋田市	13
3	6月6日	稚アユ放流事業	藤里町	18
4	6月9日	稚アユ放流事業	秋田市	29
5	6月11日	鮎及びサクラマスの子魚放流増殖事業	横手市	50
6	6月12日	アユ放流まつり	大館市	28
7	8月5日	あわびの里づくり祭り	八峰町	500
8	8月6日	豊かな川づくり事業	北秋田市	20
9	10月1日	第19回美山湖フェスティバル	大仙市	200
10	10月11日	稚アユ放流事業	由利本荘市	24
参加人数計				913



(6月2日:由利本荘市)



(6月6日:藤里町)



(8月6日:北秋田市)

◆平成30年度 県民総合リレー放流

回数	実施日	イベント名	市町村	参加人数
1	4月8日	長木川への鮭の子魚の放流	大館市	80
2	5月5日	西滝沢地区児童によるサクラマスの体験放流	由利本荘市	32
3	5月27日	横手川水辺のふれあいフェスタ	横手市	110
4	6月3日	稚鮎放流および環境保全	秋田市	30
5	6月4日	アユ放流まつり	大館市	40
6	6月6日	稚アユ放流	藤里町	22
7	6月8日	矢島小学校児童によるアユの体験放流	由利本荘市	32
8	6月8日	石沢小学校児童によるアユの体験放流	由利本荘市	50
9	6月8日	西滝沢地区児童によるアユの体験放流	由利本荘市	30
10	6月21日	愛とアユであふれる米代川づくり事業	北秋田市	64
11	7月1日	放流体験(船川漁協)	男鹿市	55
12	7月2日	放流体験(北部漁協)	八峰町	43
13	7月12日	放流体験(北浦漁協)	男鹿市	48
14	7月15日	体験放流	五城目町	50
15	7月17日	体験放流	東成瀬村	31
16	7月17日	体験放流	横手市	27
17	7月20日	体験放流	秋田市	20
18	8月4日	あわびの里づくり祭り	八峰町	600
19	8月29日	放流体験(南部漁協)	にかほ市	30
20	10月10日	コイ体験放流(高瀬川地区)	由利本荘市	30
21	10月10日	コイ体験放流(子吉地区)	由利本荘市	20
22	10月27日	河川清掃とイワナの親魚放流	湯沢市	24
参加人数計				1,468



(5月5日:由利本荘市)



(6月6日:藤里町)



(7月15日:五城目町)



(7月17日:東成瀬村)

県民総合リレー放流

◆平成31年度 県民総合リレー放流

回数	実施日	イベント名	市町村	参加人数
1	4月6日	カムバックサーモン	北秋田市	30
2	4月7日	鮭の稚魚放流式	大館市	60
3	4月8日	鮭の稚魚放流体験学習(平沢小学校)	にかほ市	73
4	4月9日	八峰町少年水産教室	八峰町	70
5	4月11日	少年水産教室	男鹿市	17
6	4月11日	サケ稚魚の放流式	大仙市	168
7	4月12日	鮭の稚魚放流体験学習(院内小学校)	にかほ市	26
8	4月12日	鮭の稚魚放流体験学習(象潟小学校)	にかほ市	76
9	4月12日	鮭の稚魚放流体験学習(金浦小学校)	にかほ市	32
10	4月13日	サケの稚魚放流	秋田市	400
11	4月16日	サケ稚魚放流会	八郎潟町	80
12	5月5日	サクラマス体験放流	由利本荘市	100
13	5月12日	子吉川がにまつり	由利本荘市	450
14	5月26日	鮎の稚魚放流	横手市	120
15	5月28日	アユ稚魚の放流	秋田市	15
16	6月4日	河川ふれあい体験事業稚鮎放流体験	藤里町	30
17	6月4日	ヤマメの稚魚放流	秋田市	55
18	6月4日	鮎放流活動	八峰町	35
19	6月5日	児童による稚アユ放流事業	上小阿仁村	20
20	6月7日	アユ体験放流(由利地区)	由利本荘市	22
21	6月7日	アユ体験放流(石沢地区)	由利本荘市	35
22	6月7日	アユ体験放流(矢島地区)	由利本荘市	52
23	6月7日	アユ体験放流(鳥海地区)	由利本荘市	250
24	6月10日	比内町漁協アユ放流祭り	大館市	35
25	7月3日	放流体験(北部漁協)	八峰町	40
26	7月6日	放流体験(船川漁協)	男鹿市	50
27	7月11日	放流体験(北浦漁協)	男鹿市	58
28	7月16日	放流体験(南部漁協)	にかほ市	35
29	7月16日	体験放流(イワナ)	横手市	17
30	7月16日	体験放流(イワナ)	東成瀬村	39
31	7月22日	イワナ体験放流	秋田市	20
32	7月28日	役内川川遊び	湯沢市	30
33	7月28日	こども自然体験プログラム「教えて!さかなとりのプロ!」	藤里町	40
34	8月3日	あわびの里づくり祭り	八峰町	300
35	8月11日	飯沢魚つかみどり大会	羽後町	30
36	8月18日	史上最大のつかみ取り	北秋田市	130
37	9月6日	マダイ稚魚放流	男鹿市	75
参加人数計				3,115



(4月11日:男鹿市)



(4月11日:大仙市)



(5月26日:横手市)



(6月4日:藤里町)



(6月7日:由利本荘市)



(7月6日:男鹿市)



(7月16日:横手市)



(7月22日:秋田市)



□ 豊かな海づくりキャラバン

平成29年度より、県内外のイベントに出展し、開催機運の醸成を図ってきました。

平成30年度からは、大会PRキャラバン隊として活動を広げ、3年間で延べ100以上のイベントに参加しました。



◎ イベント会場での PR 活動



イベント会場では、ぬいぐるみを使った魚釣りゲームや水産業のPR映像の上映、大会リーフレットや秋田の魚を紹介するパンフレット、地魚カード、缶バッジなどのノベルティグッズを配布し、PR活動を行いました。



◎ ステージイベントでの PR 活動

ステージイベントでは、大会をPRするとともに、子どもたちを対象とした地魚クイズを行い、秋田の地魚の生態や特徴、食べ方等について、紹介しました。また、平成30年10月27・28日に開催された「豊かな海づくりフェスタinこうち」の会場でも、次期開催県としてPR活動を行いました。



□ さかなきた

秋田の水産物をPRする動画「さかなきた」を制作し、YouTubeによる配信、イベントやJAL国際線の機内エンターテインメントビデオプログラムでの上映など、秋田の魚介類や食文化の魅力を国内外に発信しました。

また、大会当日に冊子「さかなきた」を招待者へ配布し、秋田の水産物の特色を詳しく紹介しました。



00 さかなきた Recommend
~秋田の魚の春夏秋冬~

南北264.2kmの海岸線を有し、日本海に沈む夕陽が絶景な秋田県。四季を通じて獲れる多種多様な魚介やハタハタ寿司、魚醤しょっつるといった独特の魚食文化をご紹介します。

言語 Language 音声 映像 MAGIC 字幕

JAL 国際線の機内エンターテインメントビデオプログラム

冊子「さかなきた」全23ページ



□ 秋田地魚街道

四季折々のさまざまな魚介類が味わえる場所を新聞やテレビ、ラジオ、JAL機内誌などで紹介し、「秋田の海の幸の魅力」を広く発信しました。

“秋田の海の豊かさ”を再発見!

夏が旬の魚介類! アマダイ、アブリ、トラアゲ、イワナギ

秋田地魚街道

道の駅おが、道の駅てんのう、道の駅あきた港、道の駅魚屋

9月7日(土)・8日(日) 全国豊かな海づくり大会おきた大会

9月8日(日) サクワイ由布 秋田地魚街道

9月7日(土)・8日(日) 豊か海づくりフェスタ in あきた

新聞広報「あきた県広報」(令和元年6月)

うめがたっす! in 秋田

地魚街道 グルメ旅

日本海に面する約264kmの長い海岸線が続く秋田県。四季折々に収穫される豊富な魚介類は、そのほとんどが天然物だ。今回は秋田地魚街道の「地魚街道」に点在する道の駅を選び、多彩な海の幸グルメを楽しむ旅。同時に旅をふくらませつつレンタカーで向かった。

海の恵みを存分に味わおう 秋田地魚街道の魚

道の駅あきた 道の駅てんのう 道の駅あきた港 道の駅魚屋

150種も水揚げされる! 秋田「地魚街道」

JAL 機内誌「SKYWARD」令和元年9月号



◎令和元年度全国一斉海浜清掃旗揚げ式八峰町海岸クリーンアップ

令和元年7月13日(土)、「全国一斉海浜清掃旗揚げ式」を、秋田県、(公財)海と渚環境美化・油濁対策機構及び八峰町との共催により実施しました。

この清掃活動は「天皇陛下御即位記念第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」の開催記念として行い、地域住民や地元企業の協力のもと約220人が参加しました。



◎きれいな海を未来につなごう♪「クリーンアップ大作戦」

令和元年7月15日(月・祝)の海の日に、海上歓迎・放流行事の会場となる秋田マリーナ南側埠頭周辺のクリーンアップ活動を実施しました。

地元飯島地区の住民の方々をはじめ、秋田県立大学の学生やあきた海洋少年団、イオンチアーズクラブの子どもたち、秋田県漁業協同組合、秋田県ハタハタ加工産業振興協議会のほか、大会のPRをしている、いとく、タカヤナギ、イオングループの従業員の方々から約200名にご協力いただきました。



◎秋田マリーナ周辺清掃活動

令和元年8月22日(木)に、秋田みなと振興会と港四社会(秋田火力発電所、秋田製錬、JR東日本秋田総合車両センター、日本製紙秋田工場)によるクリーンアップが実施されました。

海上歓迎・放流行事会場である秋田マリーナの周辺の事業者が集まり、大会来場者をきれいな会場でお迎えるために、約60名からご協力いただきました。



◎県産魚介直売「～美の国あきた海味(うみ)めぐり～」

平成30年4月～令和元年9月まで、秋田県漁業協同組合で全国豊かな海づくり大会の本県開催を記念し、地元秋田で取れる魚介類を多くの方に知っていただくため、月1回程度、県産魚介の直売会を開催しました。





天皇陛下御即位記念
第39回 全国豊かな海づくり大会
海づくり つながる未来 豊かな地域 あきた大会

資料編



□ 各部門受賞団体一覧

栽培漁業部門

賞名	都道府県	団体名
大会会長賞	北海道	沓形昆布養殖部会
農林水産大臣賞	山口県	公益社団法人山口県栽培漁業公社
環境大臣賞	秋田県	雄物川鮭増殖漁業生産組合
水産庁長官賞	山形県	山形県トラフグ研究会

資源管理型漁業部門

賞名	都道府県	団体名
大会会長賞	秋田県	秋田県漁業協同組合
農林水産大臣賞	宮城県	宮城県資源管理型漁業実践協議会
環境大臣賞	熊本県	網田漁業協同組合アサリ研究部会
水産庁長官賞	石川県	石川県漁業協同組合すず支所すずし底曳網船団

漁場・環境保全部門

賞名	都道府県	団体名
大会会長賞	長崎県	崎山漁業集落
農林水産大臣賞	秋田県	秋田県漁業協同組合北部総括支所岩館支所岩館浅海組合
環境大臣賞	静岡県	北限域(内浦湾)の造礁サンゴ群落保全会
水産庁長官賞	宮城県	宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉青年研究会





□ 作文

- ◎応募資格 秋田県内の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校(小学部、中学部、高等部)の児童・生徒
- ◎募集部門 ①小学校低学年の部(1年生～3年生)
②小学校高学年の部(4年生～6年生)
③中学校の部
④高等学校の部
- ◎募集期間 平成31年4月1日(月)～令和元年5月24日(金)
- ◎題材 「海」、「川」、「森」、「水産業」に関するもの
(海や川での体験や思い出、食卓にのぼる海や川の恵み、森から海へとつながる水の大切さなど)



◎応募状況

小学校低学年	小学校高学年	中学校	高等学校	合計
236点	264点	323点	1,317点	2,140点

◎作文入賞・入選者一覧

小学校低学年の部

賞名	題名	学校名	学年	氏名
大会会長賞	海とわたしの家族	八峰町立八森小学校	3	小林 桜和
農林水産大臣賞	受けつがれるハタハタずし	秋田市立土崎南小学校	3	山下 琴子
環境大臣賞	美味しい!大すき!海の恵み	秋田大学教育文化学部附属小学校	3	黒木 悠登
水産庁長官賞	海で育つ命	にかほ市立金浦小学校	3	笹森 咲希
秋田県知事賞	今年も海に行きたいな	大館市立桂城小学校	2	佐藤 明音
入選	大すきな海	八峰町立八森小学校	3	須藤 珠里
入選	たのしいうみが大きだよ	由利本荘市立西目小学校	2	佐々木 蒼志
入選	スイミーが教えてくれたこと	秋田市立明德小学校	3	牧 日向子
入選	波のように	八峰町立八森小学校	3	金田 絆歩
入選	森から生まれるきれいな水	五城目町立五城目小学校	3	丑田 渚帆



小学校高学年の部

賞名	題名	学校名	学年	氏名
大会会長賞	みんなで育てよう未来の海を	八峰町立峰浜小学校	4	芦崎 絢音
農林水産大臣賞	漁をするということ	八峰町立八森小学校	4	岡本 湊斗
環境大臣賞	豊かな海となることを願って	秋田市立桜小学校	6	深谷 颯馬
水産庁長官賞	僕達と水の未来	大館市立長木小学校	5	菅原 弘悠
秋田県知事賞	まほろしをふやさないために	由利本荘市立西目小学校	4	鷹嶋 寿怜
入選	守りたい～十年先、百年先までも～	秋田市立土崎小学校	6	大庭 美紗
入選	きれいな海を目指して	潟上市立出戸小学校	5	加藤 さゆり
入選	豊かな海と大切な言葉を未来へ	由利本荘市立尾崎小学校	6	高橋 真歩
入選	一人一人が海を大切に	由利本荘市立新山小学校	4	小林 芽唯
入選	大好きな浜田浜	秋田市立浜田小学校	6	小坂 天馬

中学校の部

賞名	題名	学校名	学年	氏名
大会会長賞	たくさんの工夫と努力の海	八峰町立八峰中学校	1	小林 小桜
農林水産大臣賞	海の恵み 人とのつながり	秋田市立桜中学校	3	奈良 胤実
環境大臣賞	身近な自然を大切に	北秋田市立阿仁中学校	3	田口 蓮
水産庁長官賞	美しい海が続きますように	由利本荘市立西目中学校	3	石塚 真央
秋田県知事賞	つながる海	秋田市立土崎中学校	2	安保 美紅
入選	海の秘密	秋田市立土崎中学校	3	渡部 千華
入選	私たちができること	由利本荘市立西目中学校	3	齋藤 いおり
入選	海の時間軸	秋田大学教育文化学部附属中学校	3	山本 千尋
入選	私の大好きな海	八峰町立八峰中学校	1	佐藤 美緒里
入選	自然の恩恵	秋田市立土崎中学校	3	佐々木 柚羽

高等学校の部

賞名	題名	学校名	学年	氏名
大会会長賞	守りたいもの	秋田県立秋田南高等学校	1	斎藤 琉那
農林水産大臣賞	海と生き、海を守る	秋田県立男鹿海洋高等学校	3	仲澤 竣
環境大臣賞	雄物川の利用とゴミ問題	ノースアジア大学明桜高等学校	2	松田 鈴
水産庁長官賞	豊かな資源を次の世代へ	秋田県立男鹿海洋高等学校	3	澤田 泰希
秋田県知事賞	命	秋田県立秋田中央高等学校	1	佐藤 愛理
入選	大好きな海の共有	ノースアジア大学明桜高等学校	3	曾田 綺
入選	豊かな海へ	秋田県立角館高等学校	3	石田 裕平
入選	世界に届け！秋田の水産業	秋田県立秋田北高等学校	3	後藤 玖瑠美
入選	豊かな海が運ぶ幸せ	秋田県立秋田南高等学校	1	佐藤 桃香
入選	海とつきあっていくために	秋田県立秋田工業高等学校	2	齊藤 向希



大会会長賞(小学校低学年の部)

海とわたしの家族

八峰町立八森小学校3年

小林 桜和

※P18に掲載

大会会長賞(小学校高学年の部)

みんなで育てよう未来の海を

八峰町立峰浜小学校4年

芦崎 絢音

私の住んでいる八峰町の海は、キラキラとかがやいていて、とてもきれいです。どこまでもかぎりなく続く、広くてきれいな海を見ていると、「よし、明日もがんばるぞ」とだんだんパワーがわいてきます。このきれいな海をいつまでも守っていくためには、どうしたらいいのかを考えてみました。

すると、おじいさんが、「海を育てるには、まず山を育てなければならぬんだよ」と教えてくれました。私のおじいさんとおばあさんは、山にブナの苗を植える活動に何十年も参加をし、たくさんのお木を植えて今では森になっている所もあるそうです。すぐには立派な森には育たないので、小さな苗を育てて育てるという積み重ねの活動が森を育てることにつながっている、と思いました。私も、今度は森を育てる活動に参加したいです。

空からの雨が森にふり注いで、川から海へと流れ、そして山からの栄養をふくんだミネラルたっぷりの水で海の魚たちや、生き物が元気に成長するのだな、と分かりました。そのミネラルたっぷりの海水を利用して、八峰町では塩を作ったり、アワビの養いよくをしております。海と山に囲まれた自然豊かな八峰町だからこそ、できることなのだと思います。

私には、海との思い出がたくさんあります。とても楽しいのは、夏休みにいとこが遊びに来たときに一緒に海で泳いだり、遊んだりすることです。きれいな貝がらを拾ったり、あみて小魚をすくったり、手でカニをつかまえて大喜びしました。それから、水中を箱メガネでのぞくと、いろいろな魚が泳いでいるのを見ることが出来ます。私もうき輪で波にゆらされていると、海の生き物になったような気がしました。

その他に毎年、町のクリーンアップに参加して、海までの道や砂浜をきれいにする活動をしてきました。その中で残念な出来事もありました。それは、海の周辺にタイヤやこわれた電子レンジなどの大きいゴミがすてられていたことです。大好きな

海がよごされていて悲しい思いと、何よりも海がかわいそうだと思います。

私たち人間の手は海をもっともつときれいにすることもできるし反対に簡単によごすこともできるので、その手の使い方一人ひとりがよく考えて、せきにんのある行動をしなればいけないと思いました。

四年生になって、水産教室に参加して地いきの真瀬川に鮭さけの稚魚の放流をしました。初めての体験で、たまごから大切に育ててきた稚魚をバケツに入れてもらって見ると、とても小さな一びき一びきが元気にすばやく泳ぎ回っていました。稚魚たちは、これから遠くの北の海へ向かうのだと、教えてもらいました。

放流する時は、バケツの半分位まで川の水を入れて、それから少しずつバケツをかたむけてスムーズに泳いでいけるように、鮭の気持ちを考えてやさしく放流しました。私のバケツの中から、元気よく川へと泳いでいく稚魚に「元気でね。またふる里の海に帰ってきてね」と心の中で話しかけました。子どもを見送るお母さんのような気分を味わいました。四、五年後にたくましく成長して、ふる里の川へもどってくることを楽しみに待っていたと思います。そのためにも、私たちはきれいな海を守っていかなければいけません。

海と山の自然にめぐまれた私たちのふるさと八峰町で、私はあの元気な鮭に負けぬように、強い心で様々なことにチャレンジしていきたいと思います。

一人の力は小さいけれど、みんなで協力することで大きなパワーが生まれます。そのパワーで、みんなで地いきの宝物の、キラキラとかがやくきれいな海を守り、育てていくことが出来ると思います。すぐにはきれいな海はつくれませんが、時間をかけてコツコツと豊かできれいな海づくりの活動を続けていきたいです。

大会会長賞(中学校の部)

たくさんの工夫と努力の海

八峰町立八峰中学校1年

小林 小桜

私は、今まで八峰町で獲れる魚をあまり知りませんでした。が、中学校に入学してから、「町探検」に参加したことがきっかけで、魚だけでなく水産業でも新たな発見をしました。

八峰町で獲れる魚には、春にウスメバル、マダイ、ヤリイカ、夏にシロギス、スズキ、アマダイ、秋にスケソウダラ、ノドグロ、ボタンエビ、冬には、ホッケ、マダラ、ヒラメ、ハタハタなどがあります。貝類では、アワビ、サザエ、イワガキなどがあります。この中でも特に有名なのがハタハタとアワビです。

ハタハタは十一月下旬～十二月にかけて産卵のため、八峰町八森・岩館沿岸に押し寄せます。漁獲量は、昭和三十八年～五十年にかけて十三年連続して一万トン以上の水揚げを記録した豊漁期がありました。けれどその後急に量が減り、平成三年には、過去最低の七十トンまで落ちこみました。このような状況になり、漁業者は、平成四年九月～平成七年九月までの三年間をハタハタを獲らない期間とし、三年後に期間が終わっても、漁獲制限などを導入し、平成二十年には二千九百三十八トンまで漁獲量を回復させました。このこと知って、私のお父さんがハタハタ好きなのを思い出しました。獲りすぎてしまうと、生態系が崩れてしまうことや、元に戻そうと努力することで回復させることができることが分かり、今後も意識していかなければと思います。

有名な物二つ目のアワビは、年々水揚げ量が減少しています。この状況をどうにかしようとする当時の八峰町長さんが「養殖をして、いつでもアワビが食べられる環境にしよう」と動きかけました。そして、日本白神水産でのアワビの陸上養殖が始まったそうです。

旧八森小学校を改築して、養殖に取り組みました。餌は、コンブやワカメといった海藻だそうです。そのため養殖されたアワビは、肝まで美味しく食べられるようになったそうです。養殖アワビは、水温が二十四度くらいになると死んでしまう

ので、特に、夏の温度調節に気を配っているそうです。年間に三万～三万五千個も養殖するそうです。

このアワビを白神カルチャールームで加工し、だれでも美味しく食べられるレシピを考えているそうです。他にもたくさんのお店でアワビを使った料理を提供していますが、私は「しらかみカフェ」の「あわびのスープパスタ」を食べたいと思いました。アワビという町の特産品がなくなると、養殖をして増やしているのはすごいことだと思います。旧八森小学校の再利用は、使える施設を無駄にせず地域の人も親しみをもってもらいやすいので町の役に立っていると思いました。

私は、八峰町の水産業には、努力と工夫が詰まれているなあと感じました。なぜなら、ハタハタを三年も獲らずに、二千九百三十八トンまで回復させた努力や、アワビをたくさんの人にいつでも食べてもらえるように養殖加工する工夫などがあつたからです。この努力や工夫をこれからの生活にも生かして、何かうまくいかないことがあっても、どう改善すればいいかを考え、その考えを努力して成功させてみたいです。

私たち八峰中学校の校歌には、「すべて鮎は海から故郷の瀬を遡る」という歌詞があります。白神山地の麓にある八峰町は、きれいな川が流れています。川は山の恵みを海へ運び、豊かな海はたくさんの命を支えていると思います。川で生まれたアユは、海で育ち、やがて生まれた川に戻ってきます。海だけでなく山や川、大地の恵みがつながっているのが八峰町だと思います。

そして、八峰町の特産品を守り、進化させ、私が大人になって更にその次の世代まで受け継がれるようなものにするために、今から海の恵みの大切さやありがたさをこれからも深く知りたいと思いました。



大会会長賞(高等学校の部)

守りたいもの

秋田県立秋田南高等学校 1年 齋藤 琉那

私の住んでいる男鹿市の鵜ノ崎海岸に行くといつも、私を迎え入れてくれるかのような美しいカモメの鳴き声が聞こえてきます。この海岸でキャンプをすることが、私たち家族の夏の恒例行事となっています。

近くには祖父の家がありました。祖父はいつも私たち家族にやさしく穏やかな人でした。しかし、ただ一つ、厳しい眼差しを向けていたものがあります。それは漁師という仕事です。

私は漁師である祖父の影響で、物心がつく頃には既に身近には「海」の存在がありました。祖父は漁が終わると毎日のように獲った魚を分けてくれました。そのため、私の家では常に新鮮な魚が食卓に並んでいました。他にも時々、一緒に船に乗せてもらい、洞窟のようなところに連れて行ってもらう自然の神秘を間近で感じさせてもらいました。一番印象に残っているのは、海の波によってできたまるで彫刻作品のように美しい岩を見せてもらったことです。様々なことをしてくれた祖父に感謝はしていたものの、特別な経験であるという考えを持つことはできていませんでした。

しかし、ある日突然祖父が漁をしている途中で亡くなりました。私が九歳の時の出来事でした。言葉にすることのできないどん底の悲しみと絶望感により、涙が止まりませんでした。

この日を境に、祖父が私にくれた毎日がいかに貴重で宝物のようであったか、思い知らされるようになりました。毎日のように口にしていた魚料理が食卓に上がる回数が減り、肉料理が増えました。また、船に乗ることもなくなり、自然と関わる回数が激減しました。私はようやく祖父がしてくれていたことへの有り難さを、心の底から噛みしめることができました。

その時から私は生前、祖父が愛し、大切にしていた海での思い出を守りたいと思いました。しかし、当時小学三年生だった私にできることは限られています。考えた結果、私にできることは今まで通り海との関わりをもつことなのではないかと考えました。

祖母の家がある地区は、町内会の活動が活発で様々な行事が行われています。私は海沿いにある神社のおみこしに参加し、地区に住む漁師さんの豊漁を祈ったり、海沿いの広場で盆踊りを踊って祖父をはじめとする亡くなられた先祖を供養しました。このように、祖父が亡くなる直前まで大事に思っていた鵜ノ崎海岸で供養できるのは、とても喜ばしいことであると思っています。

様々な行事の中で私が一番大切にしているのは「男鹿キッチ漕ぎ大会」という大会です。今年で第十回目の開催となり、毎年県内だけでなく、全国、海外からも参加者が訪れます。私はこの大会に何度も出場し、優勝したことがあります。そして私が夏に一番楽しみにしているイベントでもあります。キッチは昔、漁師が使っていた舟だと聞いたので、これに乗っていると、祖父の漁師の原点に触れられた気がしてすごく心地が良いです。また、漁船よりも水面に対する距離が近いので、水温や手にかからまる海藻の感覚が肌で伝わってきて、海の豊かさを教えてくれます。

しかし近年、海は地球温暖化や漂流ごみにより、以前の姿とは表情を変え、住んでいる魚も異常な動きをしたり、絶滅したりしていると聞きます。私は「豊かな海」とは海があり、そこで泳ぐ魚がいて、漁師が限度をもって漁をし、海岸で人が楽しく遊んでいるという状況だと思っています。だから、人だけが自由に生活するのではなく、自然にも気を配った生活をする必要があると思います。

祖父は、私に亡くなる前も後も海の豊かさや美しさなどを教え、私の海に対する感謝の気持ちを芽生えさせてくれました。そんな祖父にも感謝の気持ちでいっぱいです。私はこれからも、祖父が亡くなる瞬間まで愛した海からの恩恵と海への感謝を忘れず、守り続けたいと思います。



八峰町立八森小学校3年 小林 桜和



八峰町立峰浜小学校4年 芦崎 絢音



八峰町立八峰中学校1年 小林 小桜



秋田県立秋田南高等学校1年 齋藤 琉那

作品コンクール

□ 絵画

- ◎応募資格 秋田県内の小学校、中学校、義務教育学校及び特別支援学校(小学部、中学部)の児童・生徒
- ◎募集部門 ①小学校低学年の部(1年生～3年生) ②小学校高学年の部(4年生～6年生) ③中学校の部
- ◎募集期間 平成31年4月1日(月)～令和元年5月24日(金)
- ◎題 材 「海」、「川」、「森」、「水産業」に関するもの(海や川での体験や思い出、食卓にのぼる海や川の恵み、森から海へとつながる水の大切さなど)
- ◎応募状況

小学校低学年	小学校高学年	中学校	合 計
428点	478点	245点	1,151点

◎絵画入賞・入選者一覧

小学校低学年の部

賞 名	題 名	学校名	学年	氏 名
秋田県知事賞	くじらとせかい一周	秋田市立勝平小学校	2	佐藤 湊斗
秋田県教育委員会教育長賞	すなはまであそんで楽しいよ	にかほ市立象潟小学校	2	向後 美衣奈
秋田県漁業協同組合 代表理事組合長賞	海をおよぐイセエビ	秋田市立上北手小学校	3	中路 陽菜
入選	海のなかまたち	潟上市立天王小学校	2	長澤 煌士
入選	ぷくぷく きらきら ゆらゆら	秋田県立ゆり支援学校小学部	1	高橋 櫻大
入選	ぼくとゆめのさかなたち	八峰町立八森小学校	1	小林 青羽

小学校高学年の部

賞 名	題 名	学校名	学年	氏 名
秋田県知事賞	未来に輝く海	秋田市立勝平小学校	5	菊地 美咲妃
秋田県教育委員会教育長賞	海に沈む夕日	秋田県立ゆり支援学校小学部	4	細矢 健介
秋田県漁業協同組合 代表理事組合長賞	命をはぐくむ海そう	八峰町立八森小学校	4	小林 莉桜
入選	海までがんばってね	大館市立成章小学校	4	高橋 めぐる
入選	自ぜんの中のねこ	秋田市立御所野小学校	4	武田 桃果
入選	海の恵みに感謝	由利本荘市立大内小学校	6	大友 慎之介

中学校の部

賞 名	題 名	学校名	学年	氏 名
秋田県知事賞	時を越えて	秋田市立桜中学校	3	大山 瑠菜
秋田県教育委員会教育長賞	山から・人から、海へ～優しさを流そう～	秋田大学教育文化学部附属中学校	2	吉井 颯紀
秋田県漁業協同組合 代表理事組合長賞	秋田の海の恵み～男鹿のハタハタ～	秋田大学教育文化学部附属中学校	2	舘洞 百音
入選	つなぐ	秋田市立桜中学校	3	鈴木 愛未
入選	水面にうつる青空	由利本荘市立本荘北中学校	1	川越 一葉
入選	海底の宇宙	八峰町立八峰中学校	3	神馬 葵



作品コンクール

秋田県知事賞受賞作品



小学校低学年の部

くじらとせかい一周

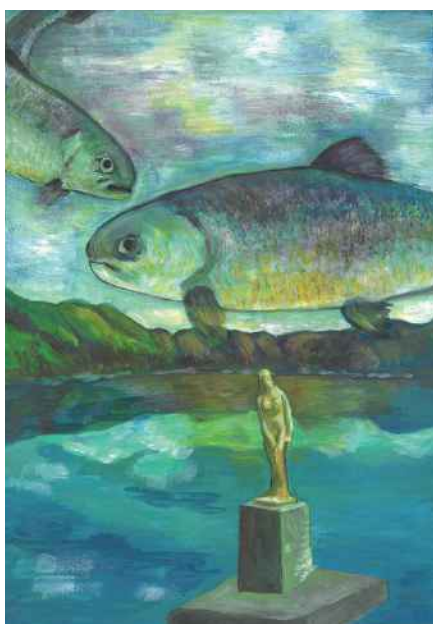
秋田市立勝平小学校 2年 佐藤 湊斗



小学校高学年の部

未来に輝く海

秋田市立勝平小学校 5年 菊地 美咲妃



中学校の部

時を越えて

秋田市立桜中学校 3年 大山 瑠菜



作品コンクール

□ 習字

◎応募資格 秋田県内の小学校、中学校、義務教育学校及び特別支援学校(小学部、中学部)の児童・生徒

◎募集部門 ①小学校低学年の部(1年生～3年生)
②小学校高学年の部(4年生～6年生)
③中学校の部

◎募集期間 平成31年4月1日(月)～令和元年5月24日(金)

◎題 材 ①小学生低学年の部「うみ」
②小学生高学年の部「豊かな海」
③中学生の部「海の恩恵」



◎応募状況

小学校低学年	小学校高学年	中学校	合計
302点	625点	303点	1,230点

◎習字入賞・入選者一覧

小学校低学年の部

賞名	学校名	学年	氏名
秋田県知事賞	大館市立扇田小学校	3	佐藤 蘭奈
秋田県教育委員会教育長賞	潟上市立大豊小学校	3	安保 紗彩
秋田県漁業協同組合代表理事組合長賞	美郷町立千畑小学校	2	田口 璃空
入選	秋田市立金足西小学校	3	河田 つぼみ
入選	横手市立横手北小学校	2	伊藤 光佑
入選	横手市立増田小学校	2	柴田 ゆう

小学校高学年の部

賞名	学校名	学年	氏名
秋田県知事賞	潟上市立飯田川小学校	5	三村 睦
秋田県教育委員会教育長賞	大館市立扇田小学校	6	佐藤 乙愛
秋田県漁業協同組合代表理事組合長賞	男鹿市立船川第一小学校	5	松橋 凧
入選	北秋田市立阿仁合小学校	6	栗谷 天花
入選	男鹿市立船川第一小学校	5	佐藤 舞羽
入選	秋田市立築山小学校	5	松田 来翔

中学校の部

賞名	学校名	学年	氏名
秋田県知事賞	男鹿市立男鹿南中学校	3	武田 美虹
秋田県教育委員会教育長賞	男鹿市立男鹿東中学校	1	小玉 斗真
秋田県漁業協同組合代表理事組合長賞	男鹿市立男鹿南中学校	3	三浦 彩夏
入選	大仙市立大曲中学校	3	杉本 和進
入選	秋田大学教育文化学部附属中学校	3	木山 怜
入選	男鹿市立男鹿南中学校	3	鎌田 ひかる



秋田県知事賞受賞作品



小学校低学年の部

大館市立扇田小学校 3年 佐藤 蘭奈



小学校高学年の部

潟上市立飯田川小学校 5年 三村 睦



中学校の部

男鹿市立男鹿南中学校 3年 武田 美虹





●秋田魁新報 2016年(平成28年)9月6日

県は5日、水産資源の保護や漁業の振興を図る「全国豊かな海づくり大会」が2019年に初めて本県で開催されると発表した。大会には天皇皇后両陛下の出席が恒例となっている。

大会は1981年から毎年秋、全国持ち回りで開かれている。県は現在建て替えを進めている県水産振興センター(男鹿市)の栽培漁業施設が2018年度に完成するのに合わせ、大会開催に立候補。全国漁業協同組合連合会(全漁連)などで行われる大会推進委員会が1日、本県での開催を決

全国豊かな海づくり大会

19年 本県初開催

昨年の大会は富山県射水市で開かれ、稚魚放流や漁船パレードなど関連行事を含め約3万5千人が参加した。ことしは今年10、11日に山形県の酒田、鶴岡両市で開催。栽培漁業や環境保全に取り組んでいる団体の表彰や地元産品の販売などを行う。

県は今後、県漁協組合などと協力して約30人の準備委員会を立ち上げ、開催日時や会場などを決める。水産漁港課は「現時点ではキジハタの放流を考えている。本県の特徴であるハタハタや北限のトラフクなども積極的にPRしたい」としている。(川村巴)

●秋田魁新報 2017年(平成29年)8月19日

19年秋「全国豊かな海づくり大会」 会場は秋田市に決定 本県初開催へ実行委発足

2019年秋、本県で初めて開催される「第39回全国豊かな海づくり大会」に向けた第1回実行委員会が18日、秋田市の秋田ニューホテルで開かれた。大会の開催地は秋田市とし、式典行事は県立武道館、歓迎・放浪行事は秋田港をそれぞれ会場とすることを決めた。

実行委は佐竹敏久知事を会長として同日発足。海に面する県内8市町の首長や水産業の関係団体、県、報道機関などの代表者ら計4人で構成する。佐竹知事は、大会は例年、天皇、皇后両陛下が出席される国民的行事。本県の食文化の発信と水産振興につなげたい」とあいさつした。

開催地は、県が沿岸8市町や漁業団体が事前に協議して



選定。県の事務局は「町営養殖施設をまじいと説明した。本番への機運醸成を図るため、県事業として、県内各地での稚魚放流や漁港クリーンアップ、地魚フェスティバル(11月11、12日、JR秋田駅付近)などを実施する。来年秋にはアトレ大会を開く。

海づくり大会は、漁業振興や水産資源の保護を目的に1981年から毎年各地で開催。全国漁業協同組合連合

大会の基本方針は「海づくりの心を育てる漁業を中心とした水産業振興」「自然環境の保全・利活用」「観光と水産の融合」「秋田の魅力と大会の魅力を盛り込んだ。本年度は大会2年後の「全国豊かな海づくり大会」に向け、会場や方針を決めた。実行委員会

●秋田魁新報 2017年(平成29年)9月26日

19年秋田開催、盛り上げよう! 海づくり大会 テーマ募集

「んだッチ」コスチュームも

2019年秋に秋田市中で開く大会を主体とする推進委員会とされる「第39回全国豊かな海づくり大会」の開催地は、農林水産省、環境省が後援する。本県では初めての開催となる。

あきた大会の基本理念は「特色ある水産物や農山漁村地域の魅力発信」「水産業の振興」と観光との融合による地域の活性化。

大会テーマは、開催目的と基本理念を簡潔に表現した賞えやすい標語・スローガン。

海づくり大会は、漁業振興や水産資源の保護を目的に1981年から毎年各地で開催。全国漁業協同組合連合

「秋田」や「東北」な地域を特定する言葉は避ける。2017年(福岡県)は「育もう、海人。地域 みんなの未来」、18年(高知県)は「川・海 かがやく未来へ水の旅」となっている。

コスチュームデザインは、基本理念を踏まえ、県の水産業をイメージできるもの。んだッチのイメージを損なわず、着るみのできるものが条件。

いずれも応募は1人1点。自作の未発表作品に限る。応募作品は返却しない。入賞作品は来年春に発表予定。テーマ、デザインともに

最優秀作品(各1点)を大会で採用し、副賞として3万円を贈る。優秀賞(各3点)は副賞1万円、佳作(各5点)は副賞5千円。このほか、入賞者には5千円相当の県産の水産加工品を贈る。

応募資格は県内在住の小学生以上(団体応募も可)。県をホームページから応募用紙をダウンロードし、作品と説明文、住所、氏名、年齢、電話番号を記入して郵送する。

宛先は〒010-8570、秋田県山王4-1-1、県水産漁港課。問い合わせは電話018-860-1888。

●秋田魁新報 2019年(令和元年)9月8日

全国豊かな海づくり大会 きょう8日の日程

式典・放流行事

式典行事(午前9時50分～、県立武道館)の流れ……出席者約千人

- プロローグ(県内高校生や若狭組隊が出演)
- 天降陛下のお言葉
- 功績団体表彰
- 種魚などのお手渡し(ハタハタ、ウナギ、マダイ、アサギ、ワカサギを水産関係者へ)
- 若狭組隊のメッセージ発表
- 大会決選
- エピローグ(出陣の場には県内市民団、ダンス隊)

放流行事(午後2時30分～、秋田港漁地区)……出席者約400人

- 歓迎演奏(若狭組)
- 海上レレード、漁漁紹介
- 種魚放流(マダイとトラフグ)

放流魚

マダイ 産地のある本県は天然物の好魚で、定置網漁などで漁獲される。5、6月が生な海産、11月ごろは産卵期がピーク。

トラフグ 定置網漁やえ縄漁で漁獲される。国内最北産の産地が本県にあり、「北限の秋田がくし」のブランド化が進む。

お手渡し魚

- ハタハタ
- ウナギ
- アサギ
- ワカサギ

水産関係者ら140人参加

「あきた：海づくり大会」の放流行事が、秋田港漁地区で8日午後2時30分から行われ、約400人が参加した。水産関係者ら140人が参加し、マダイとトラフグの放流が行われた。

当日は、県立武道館で式典が行われ、天降陛下のお言葉や功績団体表彰が行われた。その後、秋田港漁地区で放流行事が行われ、マダイとトラフグの放流が行われた。

●秋田魁新報 2019年(令和元年)9月8日

海の恵みに感謝込め

地魚バーベキューに舌鼓



秋田港漁地区で8日午後2時30分から行われた「あきた：海づくり大会」の放流行事。放流されたマダイとトラフグを堪能する参加者。会場には、新鮮な地魚を使ったバーベキューが行われ、参加者は舌鼓をたたきながら、海の恵みに感謝を込めて食事を堪能した。

高校生ら環境問題学ふ

秋田港漁地区で8日午後2時30分から行われた「あきた：海づくり大会」の放流行事。放流されたマダイとトラフグを堪能する参加者。会場には、新鮮な地魚を使ったバーベキューが行われ、参加者は舌鼓をたたきながら、海の恵みに感謝を込めて食事を堪能した。

新鮮な近海魚 店頭にすなり

秋田港漁地区で8日午後2時30分から行われた「あきた：海づくり大会」の放流行事。放流されたマダイとトラフグを堪能する参加者。会場には、新鮮な地魚を使ったバーベキューが行われ、参加者は舌鼓をたたきながら、海の恵みに感謝を込めて食事を堪能した。

8日の主な関連行事

秋田港漁地区で8日午後2時30分から行われた「あきた：海づくり大会」の放流行事。放流されたマダイとトラフグを堪能する参加者。会場には、新鮮な地魚を使ったバーベキューが行われ、参加者は舌鼓をたたきながら、海の恵みに感謝を込めて食事を堪能した。

●秋田魁新報 2019年(令和元年)9月10日

「海づくりの輪、全国へ」

秋田市で式典 陛下がお言葉

秋田港漁地区で8日午後2時30分から行われた「あきた：海づくり大会」の放流行事。放流されたマダイとトラフグを堪能する参加者。会場には、新鮮な地魚を使ったバーベキューが行われ、参加者は舌鼓をたたきながら、海の恵みに感謝を込めて食事を堪能した。

●秋田魁新報 2019年(令和元年)9月10日


恵みの海を将来へ

漁業振興、資源保護誓う

秋田港漁地区で8日午後2時30分から行われた「あきた：海づくり大会」の放流行事。放流されたマダイとトラフグを堪能する参加者。会場には、新鮮な地魚を使ったバーベキューが行われ、参加者は舌鼓をたたきながら、海の恵みに感謝を込めて食事を堪能した。

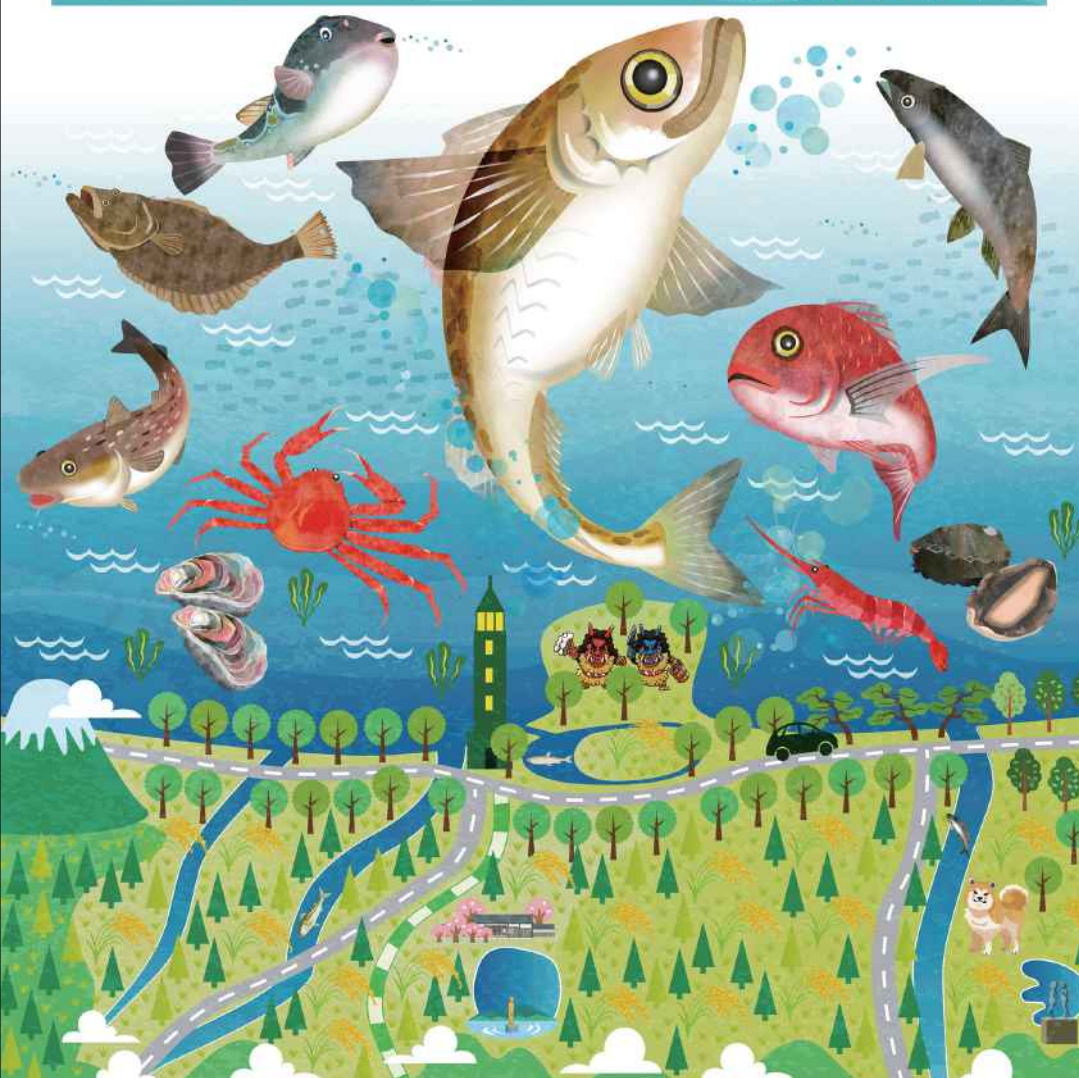


□ ポスター



天皇陛下御即位記念
第39回 **全国豊かな海づくり大会**

海づくり つながる未来 豊かな地域 **あきた大会**




令和元年 9月7日(土)・8日(日)

式典行事
◎会場/ 秋田県立武道館

海上歓迎・放流行事
◎会場/ 秋田港飯島地区
秋田マリーナ南側埠頭

関連行事
◎会場/ 道の駅あきた港ほか




主催/ 豊かな海づくり大会推進委員会
第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会
後援/ 農林水産省・環境省

問い合わせ先
秋田県農林水産部水産漁港課 全国豊かな海づくり大会推進室
〒010-0951 秋田県秋田市山王町7-11-2 TEL 010-860-1808 FAX 010-860-3851
E-mail yutalum2019@pref.akita.jp

大会関連情報や秋田で水揚げされる魚介類の旬の特産や
オススメの観光地を大会公式サイトで紹介しています！
秋田の水産資源PR動画「豊かな海」や
「んだっ子のあまた釣りゲーム」など内容盛りだくさん！

大会の情報
だけじゃない！

海づくり大会 秋田 検索



大会公式ポスター



□ 大会PR・歓迎装飾



秋田空港



秋田空港



秋田空港



秋田駅



秋田県庁正面入口

□ 招待者配布物



- ① 大会プログラム
- ② 表彰団体功績概要・作品集
- ③ 日刊水産経済新聞
- ④ 秋田県観光総合ガイドブック
- ⑤ 秋田県ガイドブック 夏・秋
- ⑥ 食の宝庫あきた
- ⑦ 秋田市観光・飲食ガイド
- ⑧ さかなきた
- ⑨ アクタノ TABI NAVI



- A ハタハタくん
- B 鯛だし塩ら〜めん
- C 毎日がとまと曜日
- D 青豆のローストビーンズ
- E 秋田しょっつる
- F 若さぎからあげ塩味
- G 樺細工のしおり
- ※E・Fはいずれか一つ



海上歓迎・放流行事
招待者用キャップ



招待者用ストラップ

□ スタッフ用品



大会本番用キャップ



大会本番用ベスト①



大会 PR 用ポロシャツ



大会本番用ベスト②



大会 PR 用ジャンパー



□ グッズ類



うちわ



ティッシュ



PR 釣りセット



ミニのぼり



のぼり



おさかなカード



缶バッジ



ネックストラップ



ミニファイル



クリアファイル



横断幕



□ 協賛企業・団体等

- ・株式会社藤里開発公社 様 (白神山水3,000名相当分、500mlペットボトル425本)
- ・小玉醸造株式会社 様 (甘酒120本)
- ・大塚製菓株式会社仙台支店秋田出張所 様
(ポカリスエットイオンウォーター300mlペットボトル300本分、ポカリスエット1.5ℓペットボトル 500本分)
- ・有限会社フジタ製菓 様 (秋田もろこし2,000個)
- ・東武トップツアーズ株式会社秋田支店 様 (のぼり旗300枚)
- ・株式会社丸松銘木店 様 (海上歓迎・放流行事司会台1台)
- ・秋田県森林組合連合会 様、秋田県漁業協同組合 様、農林中央金庫 様(式典行事司会台1台)

□ 会場等飾花プランター協力校

秋田県内の農業関連高等学校に飾花栽培を、工業関連高等学校にプランター木枠作成をしていただきました。

○ 農業関連高等学校

秋田県立秋田北鷹高等学校
秋田県立能代西高等学校
秋田県立金足農業高等学校
秋田県立西目高等学校
秋田県立大曲農業高等学校
秋田県立増田高等学校

○ 工業関連高等学校

秋田県立大館桂桜高等学校
秋田県立能代工業高等学校
秋田県立秋田工業高等学校
秋田県立由利工業高等学校
秋田県立大曲工業高等学校
秋田県立横手清陵学院高等学校





□ 規約・組織

豊かな海づくり大会推進委員会規約

第1章 総則

(名称)

第1条 この委員会は、豊かな海づくり大会推進委員会と云う。

(事務所)

第2条 この委員会は、事務所を東京都千代田区内神田全漁連内におく。

第2章 目的および事業

(目的)

第3条 この委員会は、全国豊かな海づくり大会を実施することにより、水産資源の保護、増殖の啓蒙、普及および漁場環境の保全を図り、豊かな海づくりに寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 この委員会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 全国豊かな海づくり大会の開催
- (2) 水産資源保護増殖に関する啓蒙普及事業
- (3) その他この委員会の目的達成に必要な事業

(中央表彰委員会等)

第5条
(1) 全国豊かな海づくり大会の表彰行事を行うため中央表彰委員会および中央審査委員会をおく。
(2) 中央表彰委員会および中央審査委員会の委員は別に定める。

第3章 会員

(会員)

第6条 この委員会の会員は正会員と賛助会員で構成する。

第4章 役員および幹事

(役員および幹事)

第7条 この委員会に会長、副会長、顧問、監事、幹事及び代表幹事をおく。

また、必要に応じ相談役を置くことができる。

- (1) 会長、副会長、顧問、相談役は、委員会で選任・委嘱する。
- (2) 監事は全漁連常勤監事をもってあてる。
- (3) 幹事は正会員団体に所属する役員(各団体1名)で、その団体が推薦した者とする。また、代表幹事は幹事会で選任する。
- (4) 相談役の任期は1年とする。但し、再任を妨げない。
- (5) 顧問のうち、全漁連前会長の任期は、全漁連会長退任後3年とする。

第5章 委員会および幹事会等

(委員会)

第8条

- (1) 委員会は会長が必要と認めたとき招集する。
- (2) 委員会は正会員団体の長またはこれに準ずる者で構成する。

(幹事会)

第9条 委員会の下に幹事会をおき、会長は必要あるとき、幹事を招集する。

(その他の委員会)

第10条 海づくり大会に係る開催のあり方等を検討・整理するため、豊かな海づくり大会あり方検討委員会をおくことができる。

第6章 事業年度

(事業年度)

第11条 この委員会の事業年度は、毎年4月1日から3月31日までとする。

付則

この規約は、平成25年4月1日から実施する。

全国豊かな海づくり大会運営要領

昭和56年4月30日制定

昭和59年3月26日改正

昭和60年2月4日改正

平成8年5月14日改正

平成20年1月31日改正

平成29年10月24日改正

全国豊かな海づくり大会(以下「大会」という。)の開催、運営に関しては、豊かな海づくり大会推進委員会(以下「本会」という。)の規約に定めるほか、この要領の定めるところによる。

1. 開催の趣旨

大会は、水産資源維持培養と海その他の水面の環境保全に対する意識の高揚を図るとともに、水産業に対する認識を深めるための幅広い国民的行事として行い、水産業の振興に資する。

2. 開催の主体

(1) 大会は、本会と開催する都道府県(以下「開催県」という。)との共催とし、大会の会長は、本会最高顧問の衆議院議長とする。但し、衆議院の解散により、大会開催日に衆議院議長が不在の場合は、前衆議院議長を大会会長とすることができる。

(2) 大会会長が大会出席不能の場合は、あらかじめ大会会長が指名する者を大会会長代理とする。但し、大会会長が大会会長代理を指名することができない場合は、豊かな海づくり大会推進委員会会長が指名する者を大会会長若しくは大会会長代理とする。

3. 開催の申し出

大会の開催を希望する都道府県知事は、書面をもって原則として開催2年前の9月末日までに申し出るものとする。

4. 開催県の決定

本会は、大会の開催県を開催2年前の11月末日までに決定するものとする。

5. 名称

大会の正式名称は、「第〇〇回全国豊かな海づくり大会」とする。

6. テーマ

開催県は、大会の開催に当たって、本会と協議のうえ、開催の場所、都道府県民の意向、都道府県政の方針等を考慮して、大会テーマを定めるものとする。

7. 防災対策

開催県は、大会開催に当たって、津波等の災害対策を講ずるとともに、防災関係当局に積極的に協力していくものとする。

8. その他

この要領に定めるものの他、大会の開催、運営等に関する必要な事項については、本会が定めるものとする。

豊かな海づくり大会推進委員会役員・幹事名簿

令和元年7月4日現在

役職	氏名	所属・役職名	
最高顧問	大島 理森	衆議院議長	
会長	岸 宏	全国漁業協同組合連合会 代表理事会長	
	白須 敏朗	(一社)大日本水産会 会長	
顧問	上田 良一	日本放送協会 会長	
	高橋 正征	(公社)日本水産資源保護協会 会長	
副会長	和田 時夫	(一社)漁業情報サービスセンター 会長	
	服部 郁弘	(一財)中央漁業操業安全協会 理事長	
委員	瀧美 雅也	(一財)東京水産振興会 会長	
	渡邊 英直	(一社)マリノフォーラム21 代表理事会長	
	橋本 牧	(公社)全国漁港漁場協会 会長	
	宮腰 光寛	全国内水面漁業協同組合連合会 代表理事会長	
代表幹事	三浦 秀樹	全国漁業協同組合連合会 常務理事	
幹事	桑 知文	(公財)海と清環境美化・油濁対策機構 専務理事	
	濱田 研一	(公社)全国豊かな海づくり推進協会 専務理事	
	長岡 英典	(一社)大日本水産会 常務理事	
	西本真一郎	(一財)東京水産振興会 振興部長	
	遠藤 進	(公社)日本水産資源保護協会 専務理事	
	白石 學	(一社)マリノフォーラム21 技監	
	松岡 英二	(公社)全国漁港漁場協会 理事	
	淀江 哲也	(一社)漁業情報サービスセンター 専務理事	
	代田 一貴	日本放送協会 視聴者総局 事業センター 副部長	
	内田 和男	全国内水面漁業協同組合連合会 専務理事	
	監事	岩山 裕史	全国漁業協同組合連合会 常任監事

第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会設置要綱

(名称)

第1条 本会は、第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会(以下「実行委員会」という。)と称する。

(目的)

第2条 実行委員会は、第39回全国豊かな海づくり大会(以下「大会」という。)の開催に関する次の事項を審議するものとする。

- (1) 大会の開催に必要な基本計画及び実施計画の策定に関すること。
- (2) 関係機関及び団体との連絡調整等に関すること。
- (3) その他必要な事項に関すること。

(構成)

第3条 実行委員会は、会長、副会長、委員(以下「実行委員」という。)、顧問及び参与をもって構成する。

- 2 会長は、秋田県知事をもって充てる。
- 3 副会長は、秋田県漁業協同組合代表理事組合長及び開催市町村長をもって充てる。
- 4 実行委員、顧問及び参与は、別表に掲げる職にある者をもって充てる。

(委員等の職務等)

第4条 会長は、実行委員会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長が事故その他やむを得ない事由があるときは、副会長のうちから会長が指名した者が、その職務を代理する。
- 3 顧問は、大会の運営に関し助言する。
- 4 参与は、報道機関とする。

(任期)

第5条 実行委員の任期は、第10条の規定により実行委員会が解散する日までとする。ただし、特別な理由があると会長が認めるときは、この限りではない。

(会議)

第6条 実行委員会の会議(以下「会議」という。)は、必要に応じ会長が招集し、会長が議長となる。

- 2 会議は、実行委員の半数以上の出席をもって成立するものとする。
- 3 実行委員は、事故その他やむを得ない事由により会議に出席できないときは、代理人を出席させることができる。
- 4 会議の議事は、議長を除く出席した実行委員の過半数でこれを決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 5 会長は、必要があると認めるときは、会議に実行委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(幹事会)

第7条 実行委員会で審議する事項を検討するため、実行委員会に幹事会を置く。

- 2 幹事会は、幹事長、副幹事長及び幹事をもって構成する。
- 3 幹事長は、秋田県農林水産部長をもって充てる。
- 4 副幹事長は、秋田県漁業協同組合専務理事をもって充てる。
- 5 幹事は、幹事長が指名する。
- 6 幹事会の運営に関し必要な事項は、幹事長が別に定める。

(専門部会)

第8条 幹事会で検討する事項を調査するため、幹事会に専門部会を置く。

- 2 専門部会の運営に関し必要な事項は、幹事長が別に定める。

(事務局)

第9条 実行委員会の事務を処理するため、秋田県農林水産部水産漁港課全国豊かな海づくり大会推進室内に事務局を置く。

(組織)

第10条 実行委員会は、大会の実績報告をもって解散する。

(補足)

第11条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成29年7月3日から施行する。
- 2 この要綱は、実行委員会の解散をもって失効する。

附 則

- 1 この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成30年12月19日から施行する。



別表第3条関係

	所属・役職名
1	会長 秋田県知事
2	副会長 秋田県漁業協同組合代表理事組合長
3	副会長 秋田市市長
4	顧問 秋田県議会議長
5	顧問 秋田県議会農林水産委員長
6	顧問 秋田市議会議長
7	委員 秋田県市長会長
8	委員 秋田県町村会長
9	委員 能代市長
10	委員 男鹿市長
11	委員 由利本荘市長
12	委員 湯上市市長
13	委員 にかほ市長
14	委員 三種町長
15	委員 八峰町長
16	委員 秋田海上保安部長
17	委員 秋田県内水面漁業協同組合連合会 代表理事会長
18	委員 公益財団法人秋田県栽培漁業協会 理事長
19	委員 日本漁船保険組合秋田県支所 運営委員長
20	委員 全国漁業信用基金協会秋田支所 担当理事
21	委員 全国合同漁業共済組合秋田県事務所 所長
22	委員 全国共済水産業協同組合連合会東北事業本部秋田支店 支店長
23	委員 秋田県鮭鱒増殖協会 会長
24	委員 全日本漁港建設協会秋田県支部 支部長
25	委員 秋田県漁業士会 会長
26	委員 秋田県漁協女性部連絡協議会 会長
27	委員 秋田県ハタハタ加工産業振興協議会 会長
28	委員 しよつづの研究会 会長
29	委員 秋田県農業協同組合中央会 会長
30	委員 秋田県森林組合連合会 代表理事会長
31	委員 秋田県商工会議所連合会 会長
32	委員 秋田県商工会連合会 会長
33	委員 秋田県中小企業団体中央会 会長
34	委員 一般社団法人秋田県観光連盟 会長
35	委員 公益財団法人秋田観光コンベンション協会 理事長
36	委員 株式会社秋田県物産振興会 代表取締役
37	委員 公益社団法人秋田県バス協会 会長

	所属・役職名
38	委員 秋田県警察本部長
39	委員 秋田県教育委員会教育長
40	委員 秋田県総務部長
41	委員 秋田県企画振興部長
42	委員 秋田県あきた未来創造部長
43	委員 秋田県観光文化スポーツ部長
44	委員 秋田県健康福祉部長
45	委員 秋田県生活環境部長
46	委員 秋田県農林水産部長
47	委員 秋田県産業労働部長
48	委員 秋田県建設部長
49	委員 秋田県会計管理者(兼)出納局長
50	委員 秋田県山本地域振興局長
51	委員 秋田県秋田地域振興局長
52	委員 秋田県由利地域振興局長
53	委員 秋田県議会事務局長
54	参与 株式会社秋田魁新報社 代表取締役社長
55	参与 株式会社朝日新聞社秋田総局 総局長
56	参与 株式会社毎日新聞社秋田支局 支局長
57	参与 株式会社読売新聞社秋田支局 支局長
58	参与 株式会社河北新報社秋田総局 総局長
59	参与 株式会社産経新聞社秋田支局 支局長
60	参与 株式会社時事通信社秋田支局 支局長
61	参与 一般社団法人共同通信社秋田支局 支局長
62	参与 株式会社日本経済新聞社秋田支局 支局長
63	参与 日本放送協会秋田放送局 局長
64	参与 株式会社秋田放送 代表取締役社長
65	参与 秋田テレビ株式会社 代表取締役社長
66	参与 株式会社北羽新報社 取締役社長
67	参与 株式会社エフエム秋田 代表取締役社長
68	参与 秋田朝日放送株式会社 代表取締役社長
69	参与 株式会社秋田ケーブルテレビ 代表取締役

第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会設置要綱の規定に基づく
事務局員名簿

氏名	秋田県職員としての職名
齋藤 了	農林水産部長
能見 智人	農林水産部次長
小野 正則	農林水産部次長
石山 正喜	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室長
大友 秀樹	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室 主幹(兼)班長
鈴木 洋一	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室 主幹(本務:警察本部警備部)
棚橋 恵里子	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室 副主幹
戸嶋 郁子	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室 主査
土門 和彦	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室 主任
松山 大志郎	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室 主任(本務:水産漁港課)
佐藤 雅博	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室 主幹(兼)班長
安食 知佳子	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室 副主幹
佐々木 寿文	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室 主査(秋田市)
藤原 剛	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室 技師(本務:水産振興センター)
宮野 佑規	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室 主事
坂本 太郎	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室 主事
田中 雄輝	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室 主幹(兼)班長
渡部 雄二	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室 副主幹
兒玉 公成	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室 専門員
寺田 幹	農林水産部全国豊かな海づくり大会推進室 技師(本務:水産漁港課)

第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会幹事会設置要領

(趣旨)

第1条 この要領(以下「要領」と言う。)は、第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会(以下「委員会」と言う。)設置要綱(以下「要綱」と言う。)第7条の規定により設置する幹事会に関し、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 幹事会の所掌事務は、次に定める事項について、別に定める専門部会(以下「部会」と言う。)の意見等を調整・集約し、委員会に報告することとする。

- (1)要綱第2条に関すること。
- (2)その他必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 幹事会は、幹事長、副幹事長及び幹事をもって組織する。

- 2 幹事長は、秋田県農林水産部長をもって充てる。
- 3 副幹事長は、秋田県漁業協同組合専務理事をもって充てる。
- 4 幹事は、幹事長が指名する者をもって充てるものとし、詳細は別表による。

(幹事長、副幹事長)

第4条 幹事長は、幹事会を代表し会務を総理する。
2 幹事長に事故があるときは、副幹事長がその職務を代理する。

(会議)

- 第5条 幹事長は、必要に応じて幹事会を招集し、その会議の議長となる。
- 2 幹事は、事故その他やむを得ない理由により会議に出席できないときは、あらかじめ幹事長の了解を得て、代理人を出席させることができる。
 - 3 会議は、幹事の半数以上の出席をもって成立するものとする。
 - 4 会議の議事は、議長を除く出席幹事の過半数でこれを決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
 - 5 幹事長は、所掌事務に関して必要があると認めるときは、幹事以外の者の出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 幹事会の事務を処理するために、秋田県農林水産部水産漁港課全国豊かな海づくり大会推進室内に事務局を置く。

(その他)

第7条 要領に定めるもののほか、幹事会の運営に関し必要な事項は、幹事長が別に定める。

附則

- 1 この要領は、平成29年8月31日から施行する。
- 2 この要領は、第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会の解散の際に失効する。

附則

- 1 この要領は、平成30年4月1日から施行する。

第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会幹事会幹事名簿

	所属	職名	役職
幹事	秋田県農林水産部	部長	幹事長
	秋田県漁業協同組合	専務理事	副幹事長
	秋田県内水面漁業協同組合連合会	事務局長	幹事
	秋田市産業振興部	部長	幹事
	秋田県農林水産部	次長	幹事(宿泊・輸送等部会長)
	秋田県農林水産部	次長	幹事(総務・接遇部会長)
	秋田県農林水産部水産漁港課全国豊かな海づくり大会推進室	室長	幹事(行事運営・広報部会長)

第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実施本部設置要綱

(趣旨)

第1条 第39回全国豊かな海づくり大会あきた大会(以下「大会」という。)を円滑に運営するため、第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実施本部(以下「実施本部」という。)を設置する。

(組織及び所掌事務)

第2条 実施本部は、秋田県職員及び秋田市職員をもって組織する。
2 実施本部に別表第1に掲げる部及び班を置き、その分掌事務は同表に定める部及び班の区分に応じ、それぞれ同表右欄に掲げるとおりとする。

(職の設置)

- 第3条 実施本部に本部長、副本部長及び本部員を置く。
2 本部長は秋田県知事を、副本部長は秋田県副知事及び秋田市長をもって充てる。
3 本部員は、別表第2に掲げる職にある者をもって充てる。
4 実施本部に推進チームを置き、運営責任者には農林水産部次長をもって充てる。
5 推進チームには部長、班長及び班員を置く。
6 本部長は、必要があると認めるときは、前項に規定する職以外の職を置くことができる。
7 部長、班長及び班員は、次に掲げる者の中から、各任命権者の了承を得て、本部長が指名する。
(1)秋田県知事部局に在職する者
(2)秋田県議事事務局に在職する者
(3)秋田県教育庁に在職する者
(4)秋田市の職員
(5)その他本部長が必要と認めるときは、必要があると認めるときは、班員を当該班員の属する班以外の事務に従事させることができる。

(職務)

- 第4条 本部長は、実施本部の事務を総括する。
2 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故あるときは、あらかじめ指定した副本部長が、その職務を代理する。
3 本部員は、本部長の命を受け、実施本部の運営に参画する。
4 運営責任者は、本部長の命を受け、各推進チームを指揮監督する。
5 部長は、上司の命を受け、部下を指揮監督し、部の事務を掌理する。
6 班長は、上司の命を受け、部下を指揮監督し、班の事務を掌理する。
7 班員は、上司の命を受け、班の事務に従事する。

(会議)

- 第5条 実施本部の会議は、本部会議、部長会議、班長会議、部内会議及び班内会議とし、必要に応じて開催するものとする。
2 本部会議、部長会議及び班長会議は、本部長が招集し、部内会議はそれぞれの部長が招集し、班内会議は、それぞれの班長が招集する。
3 本部会議は、本部長、副本部長及び本部員で構成し、大会の円滑な運営について協議する。本部会議の進行は、農林水産部長が行う。
4 部長会議は、各部長で構成し、各部門間の連絡調整に関する事項を協議する。部長会議の進行は、総括部長が行う。
5 班長会議は、各班長で構成し、各班間の連絡調整に関する事項を協議する。班長会議の進行は、総括部実施本部運営班長が行う。
6 部内会議は、各部の部長及び班長で構成し、部内各班の連絡調整に関する事項を協議する。部内会議の進行は、総括管理を行う班長が行う。
7 班内会議は、各班の班長及び班員で構成し、各班の所掌事務の円滑な運営について協議する。班内会議の進行は班長が行う。

(庶務)

第6条 実施本部の庶務は、秋田県農林水産部水産漁港課全国豊かな海づくり大会推進室において処理する。

(雑則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、実施本部の組織及び運営に関し必要な事項は、本部長が別に定める。

附則

- 1 この要綱は、平成31年4月8日から施行する。
- 2 この要綱は、令和元年9月8日限り、その効力を失う。



別表第1（第2条関係）

組織名		分掌事務
部	班	
総括部	実施本部運営班	実施本部の総括、大会運営の進行管理、関係機関との連絡調整、報道機関対応、判定会議の運営
	総務班	県民対応等の窓口、荒天時対応の補助
特別接伴部	SVIP接伴班	SVIPとの連絡調整・受付・接伴
歓迎レセプション部	総務・招待者管理班	歓迎レセプションの総括管理、招待者の名簿管理・受付
	入場管理班	招待者の手荷物検査
	歓迎レセプション運営班	歓迎レセプションの運営進行管理
	作品御覧班	絵画・習字作品御覧の運営進行管理
	救護・防災班	救護及び防災対策、医療機関・消防等との連絡調整
式典行事部	総務・招待者管理班	式典行事の総括管理、招待者の名簿管理
	招待者受付班	招待者の2次受付・手荷物預かり・会場外の案内誘導
	入場管理班	招待者・大会関係者の手荷物検査、持込禁止物の預かり
	会場案内班	会場内の総合案内、招待者の会場内誘導
	式典行事運営班	式典行事の運営進行管理
	特別接伴班	両陛下の湯茶接遇、御休所周辺の確認
	接遇班	湯茶サービス、SVIP湯茶接遇
	放流魚御覧運営班	放流魚御覧の運営進行管理
	救護・防災班	救護及び防災対策、医療機関・消防等との連絡調整
	施設管理班	会場施設の管理、会場内の警備
	海上歓迎・放流行事部	総務・招待者管理班
招待者受付班		招待者の2次受付・手荷物預かり
入場管理班		招待者の手荷物検査
会場案内班		招待者の会場内案内
海上歓迎行事運営班		海上歓迎行事の運営進行管理
放流行事運営班		放流行事の運営進行管理
接遇班		湯茶サービス
救護・防災班		救護及び防災対策、医療機関・消防等との連絡調整
会場警備班		会場及び周辺の警備
関連行事部	総務・会場案内班	関連行事会場の総括管理、会場案内、会場美化
	ステージエリア班	ステージエリア運営、出演者管理
	企画展示班	企画展示の運営
	体験エリア班	体験エリアの運営
	出展者管理班	出展者管理・備品管理、出展者補助
	救護・防災班	救護及び防災対策、医療機関・消防等との連絡調整
	駐車場班	関係者・一般来場者駐車場の管理運営
宿泊・輸送部	式典行事輸送班	式典会場の輸送総括、駐車場管理、弁当引換・回収
	海上歓迎・放流行事輸送班	海上歓迎・放流会場の輸送総括、駐車場管理、弁当引換・回収
	受付・添乗班	受付・添乗の総括管理、指定宿泊施設及び集合地での1次受付、バス添乗

別表第2（第3条関係）

秋田県総務部長
秋田県企画振興部長
秋田県あきた未来創造部長
秋田県観光文化スポーツ部長
秋田県健康福祉部長
秋田県生活環境部長
秋田県農林水産部長
秋田県産業労働部長
秋田県建設部長
秋田県会計管理者
秋田県議会事務局長
秋田県教育長
秋田市副市長

「第39回全国豊かな海づくり大会」会場運営管理要綱

(趣 旨)

第1条 この要綱は、2019年9月7日、8日開催の「第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」(以下「海づくり大会」という。)の円滑な運営と秩序の保持を図るため、海づくり大会会場(以下「会場」という。)における運営管理に係る必要な事項を定めるものとする。

(運営管理者)

第2条 会場の運営管理者(以下「管理者」という。)は、第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会(以下「実行委員会」という。)会長とする。

2 管理者の権限に属する業務の処理は、実行委員会委員の所属先の職員(以下「職員」という。)が行う。

(適用範囲)

第3条 この要綱において適用する会場及び、その区域は次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 式典行事会場
秋田県立武道館及び管理者が指定する区域
- (2) 海上歓迎・放流行事会場
秋田港飯島地区及びその周辺のうち、管理者が指定する区域
- (3) 歓迎レセプション会場
秋田キャッスルホテル及び管理者が指定する区域

(持ち込み禁止物件)

第4条 何人も、会場に次の各号に掲げる物件を持ち込むてはならない。ただし、管理者が特に認めたときは、この限りでない。

- (1) 凶器
- (2) 模造刀、玩具銃、護身用具、棒状の物(介護用具を除く。)等凶器となり得る物
- (3) 毒物、劇物、爆発物、火薬類、油類、火気(ライターを含む。)、薬品類(医薬品を除く。)、工具類その他の危険物
- (4) カッターナイフ、ハサミ等の刃物類
- (5) 水筒、瓶類、缶類(スプレー缶を含む。))及びペットボトル類
- (6) 旅行鞆、手提げ鞆等の荷物類
- (7) 傘類
- (8) 動物類(身体障害者補助犬法(平成14年法律第49号)第2条に規定する身体障害者補助犬を除く。)
- (9) 酒類
- (10) ワイヤレスマイク、ラジコン機器(航空機、自動車、船舶等)等電波を送受信する機器及び無線通信機器、携帯電話・スマートフォン等の携帯端末(以下「携帯電話等」という。)を除く。
- (11) 拡声器、オーディオ機器、ポータブルゲーム機、楽器、サーチライト、レーザーポインター、反射鏡等、音又は光を発するもので、使用方法により他の入場者や海づくり大会の運営に迷惑となるおそれのある物
- (12) カメラ、ビデオカメラ、三脚等の撮影機器
- (13) 前各号に定めるもののほか、海づくり大会の円滑な運営と秩序の保持を妨げ、又は妨げるおそれのある物

(禁止行為)

第5条 何人も、会場及びその周辺において、次の各号に掲げる行為を行ってはならない。ただし、管理者が特に認めた場合は、この限りでない。

- (1) 招待状又は来場者識別票を携行せずに会場内へ入場すること。
- (2) 許可を受けずに撮影を行うこと(携帯電話等に付属された機能を用いて撮影する場合を含む。)
- (3) 立入を制限し、又は禁止された区域に正当な理由なく立ち入ること。
- (4) ラジコン機器(航空機、自動車、船舶等)を侵入等させること。
- (5) 酒気を帯びて会場内へ入場すること。
- (6) 通行の妨害となる行為をすること。
- (7) 威嚇又は喧嘩にわたる行為を行うこと。
- (8) 会場内の施設、工作物、器物、装置等を汚損、若しくは破損し、又はみだりに操作すること。
- (9) 関係者に面会を強要すること又は会場内に居座ること。
- (10) 所定の区域以外において火気を使用(喫煙を含む。))又はゴミその他の汚物を廃棄すること。
- (11) 所定の区域以外への車両及び船舶等の進入、駐車・停泊及び駐輪をすること。
- (12) 前各号に定めるもののほか、会場の秩序を乱し、海づくり大会の円滑な運営及び進行を妨害するような行為をすること。

(許可を要する行為)

第6条 会場及びその周辺において、次の各号に掲げる行為をしようとする者は、あらかじめ管理者の許可を受けなければならない。ただし、

管理者が特に認めた場合はこの限りでない。

- (1) 文書、図面、写真、図書その他の印刷物を掲示し、頒布又は散布すること。
- (2) 掲示板、立看板、横断幕、懸垂幕、旗、のほり、アドバルーン等を持ち込み、掲示、掲揚又は着用すること。
- (3) ガスその他これに類似する火気を使用すること。
- (4) 宣伝、勧誘、講演、集会、物品の販売又は寄付の募集その他これらに類する行為をすること。
- (5) テント、小屋その他の工作物を設置すること。

2 管理者は、前項の許可をする場合において、必要な条件を付すことができる。

(遵守事項)

第7条 何人も、会場において次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。ただし、管理者が特に認めた場合はこの限りでない。

- (1) 安全確保のため、手荷物等の検査に応じるとともに、持ち込み禁止物件など携行できない物件は管理者に預けること。
- (2) 管理者が交付した来場者識別票を外部から視認できるように携行するとともに、破損、亡失等の場合は、速やかに係員に申し出て指示を受けること。
- (3) 招待状及び本人確認書類(運転免許証、パスポート、住基カード等)を携帯し、会場の警備を行う者が本人確認書類の提示を受けた場合にはこれに応じること。
- (4) 携帯品は管理者が交付した透明袋に入れて携行すること。
- (5) 職員の指示、案内、誘導等に従うこと。
- (6) 指定された場所において観覧すること。ただし、職員等が移動を指示した場合はこれに従うこと。
- (7) 携帯電話等の電源を切るか、マナーモードに設定すること。
- (8) ゴミ処理方法の遵守及び清潔維持に努めること。
- (9) 各自が火災、盗難その他の事故防止に努めること。

(質問等)

第8条 管理者が必要と認める場合は、来場者等に対して質問をし、本人確認書類の提示を求め、又は必要な事項を指示することができる。

(入場の制限)

第9条 管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、会場への入場の拒否、行為の中止、会場からの退場、その者の負担による持ち物の撤去及びその他必要と認められる措置を命じ、又は管理者の許可なく侵入、放置等された物件に対し必要な措置を講じることができる。

- (1) 第4条の各号に掲げる禁止物件を持ち込んだ者若しくは持ち込もうとする者、又は当該物件。
- (2) 第5条の各号に掲げる行為を行った者若しくは行うおそれのある者、又は当該物件。
- (3) 許可なく第6条第1項の各号に掲げる行為を行った者若しくは行うおそれのある者、又は当該物件。
- (4) 正当な理由なく、第7条の各号に掲げる事項を遵守しない者。

(警備要請)

第10条 管理者は、秋田県警察本部長及び第二管区海上保安本部長に対し、事前に警備要請を行うものとし、必要があると認める場合、職員は会場に配置されている警察官及び海上保安官に協力を求めることができる。

(告知)

第11条 管理者は、第4条から第9条までの内容について、会場に告知板を設置する方法等により、告知するものとする。

(雑 則)

第12条 この要綱に定めるもののほか、会場の運営管理に関し必要な事項は、管理者が別に定める。

附 則

この要綱の適用期間は、2019年9月7日から同月8日までとする。

謝 辞

大会の開催にあたり、本誌でご紹介できなかった団体等を含め、多くの皆様に御支援、御協力をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第39回全国豊かな海づくり大会 秋田県実行委員会

発行：令和2年3月

編集：秋田県農林水産部水産漁港課全国豊かな海づくり大会推進室
〒010-0951 秋田県秋田市山王四丁目1番2号

※掲載写真、掲載記事の無断転載及び複製を禁じます。